

Ⅲ 調査結果（単純集計）

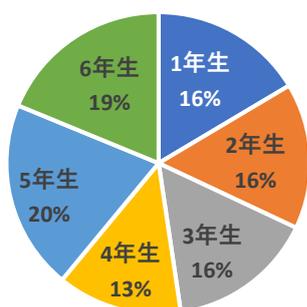
1. 学年（年齢）・性別

I. 生活状況について

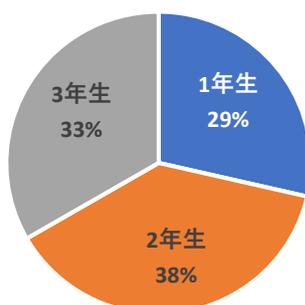
問1 あなたは（お子さんは）何年生ですか 又は あなたの年齢は

問2 あなたの（お子さんの）性別は

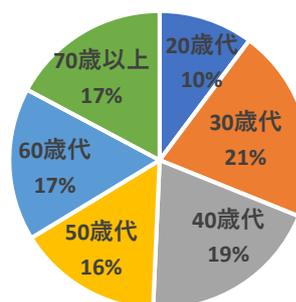
小学生（128名）



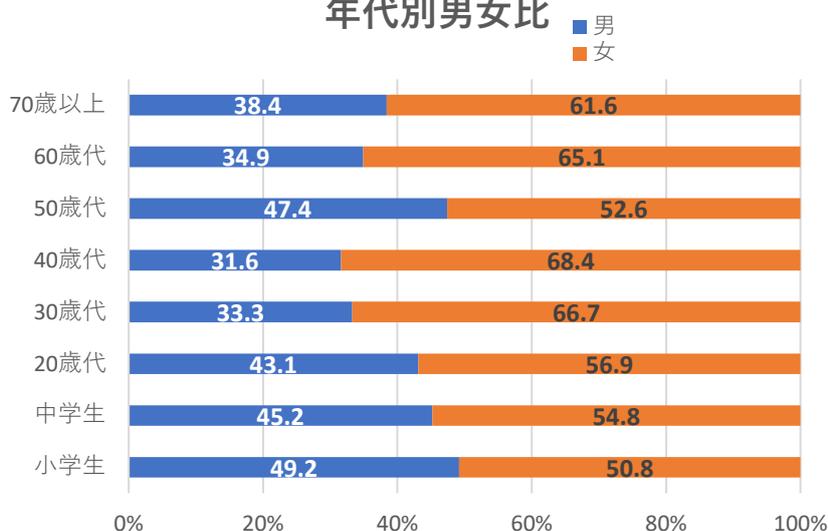
中学生（42名）



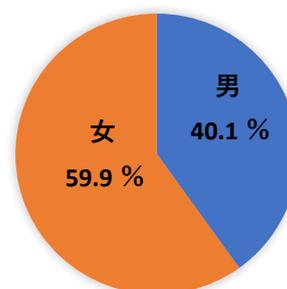
町民（501名）



年代別男女比



全体男女比

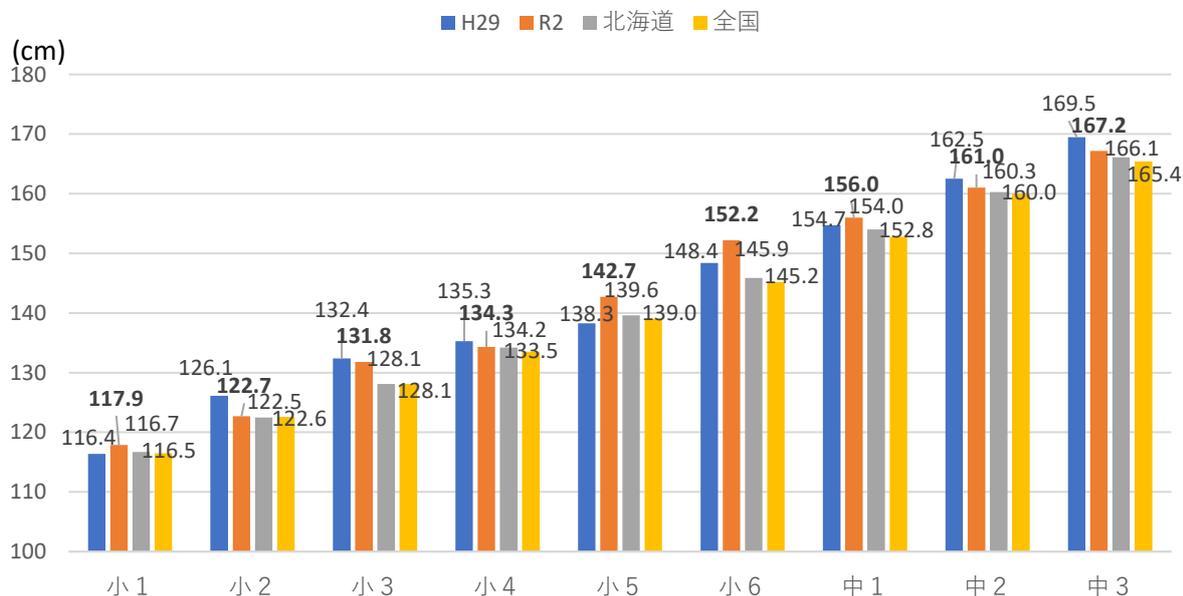


各回収率は前回と比べ、小学生で高く（78.7%→85.9%）、中学生で低い（66.7%→48.3%）結果であった。町民は回収率が低い（69.7%→55.1%）ものの、前回は保護者のみのアンケートで、20歳代2%、50歳代9%、60～70歳代2%と年代に偏りがみられたが、各年代幅広くアンケート調査を実施することができた。男女比はどの年代も女性が半数以上を占め、全体の男女比は女59.9%、男40.1%であった。

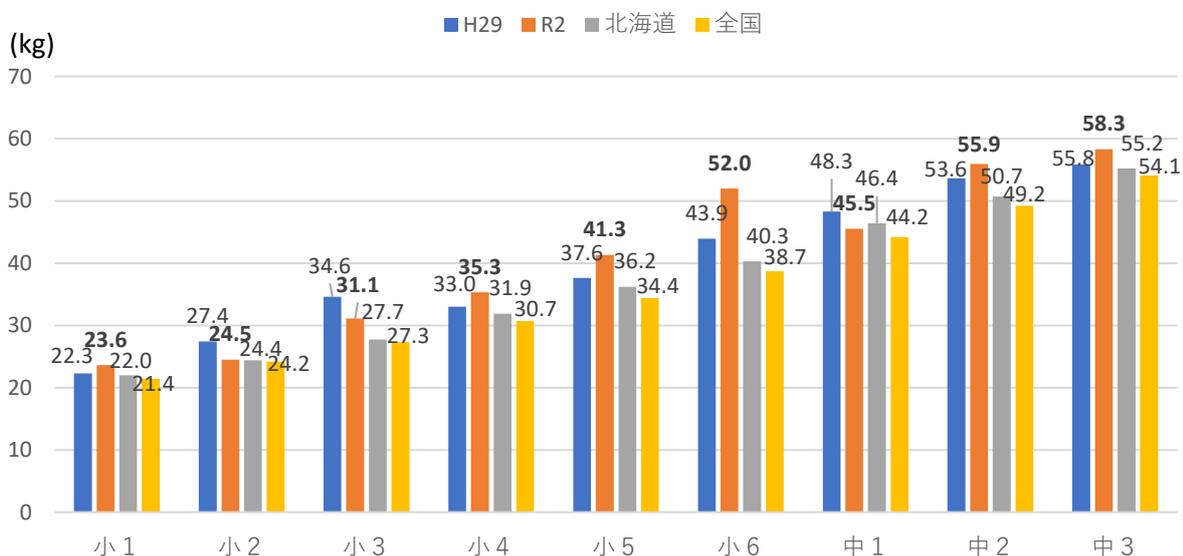
2. 身長・体重

問3 あなたの（お子さんの）身長と体重は

平均身長と比較（男子）

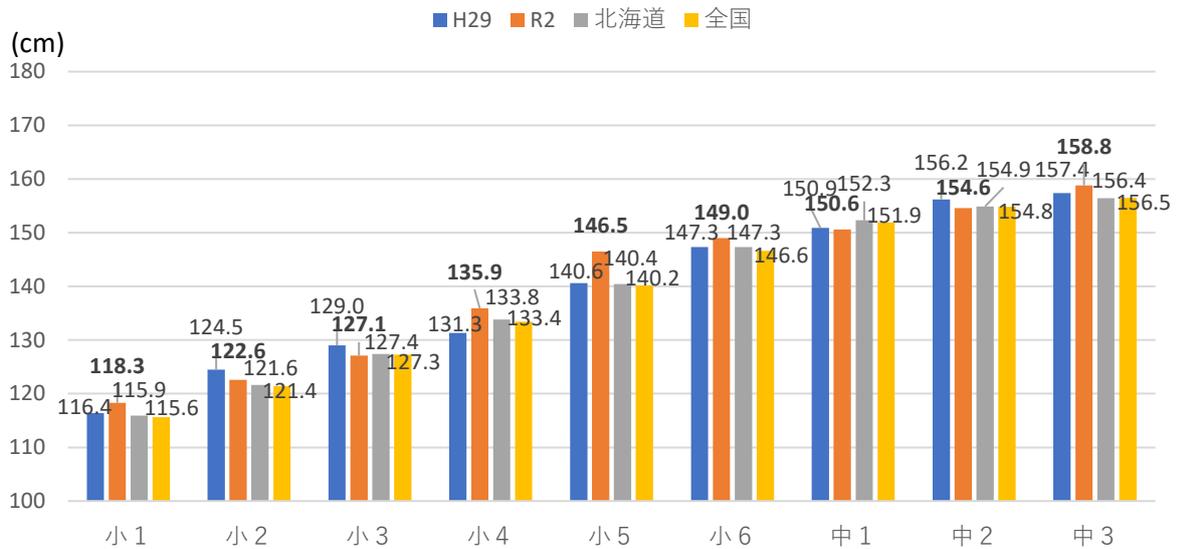


平均体重と比較（男子）

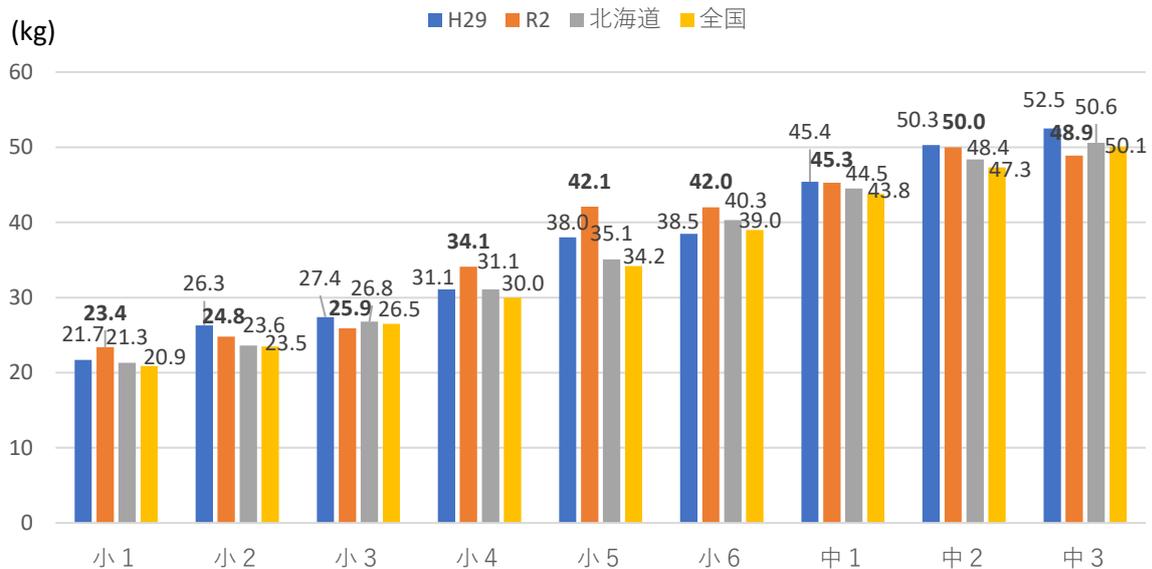


小・中学生男子の身長は、全学年で全国・北海道の平均値を上回っていた。H29年度との比較では、小学1・5・6年生、中学1年生で上回っているが、その他の学年では下回っていた。また、小・中学生男子の体重は、中学1年生以外の全ての学年で、全国・北海道の平均値を上回っていた。H29年度と比較すると、小学2・3年生、中学1年生以外の学年で上回っており、特に小学6年生で顕著にみられた。

平均身長の比較（女子）



平均体重の比較（女子）



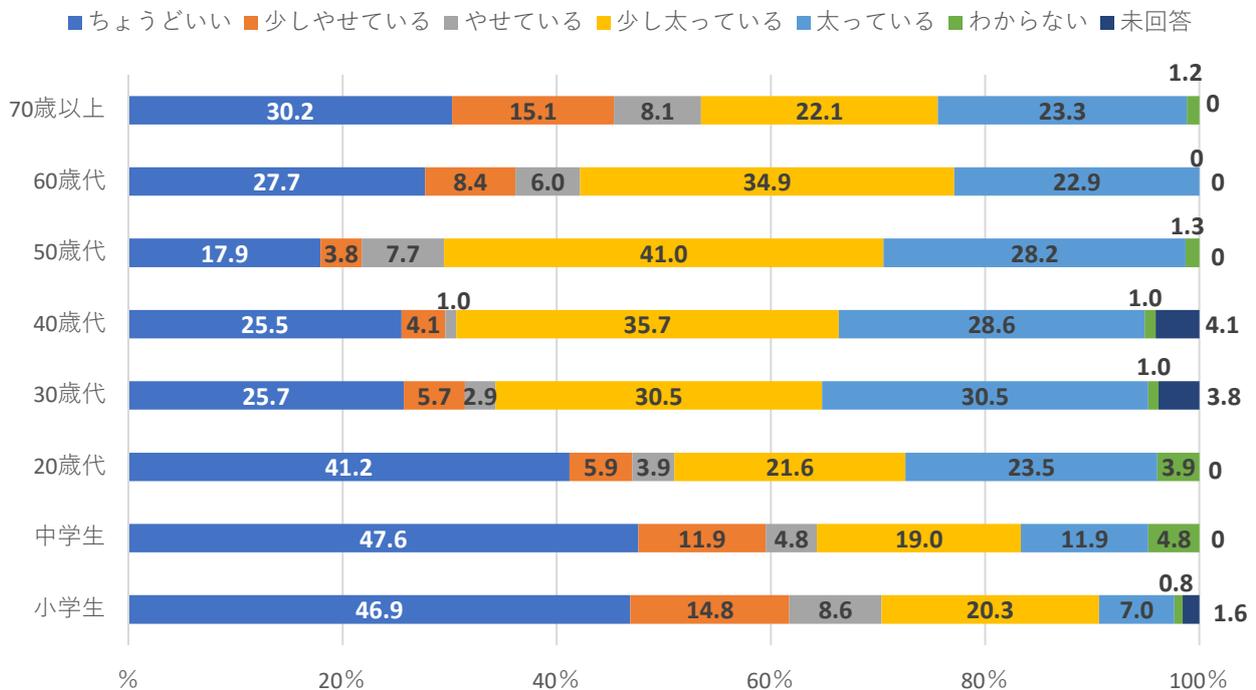
小・中学生女子の身長では、全国・北海道の平均値と比べて小学3年生、中学1・2年生で横ばい、それ以外の学年で上回っていた。H29年度との比較では、小学1・4・5・6年生、中学3年生で上回り、その他は横ばい又は下回る結果であった。小・中学生女子の体重は、小学1・4・5・6年生で全国・北海道・H29年度と比べて上回っているものの、その他の学年では横ばい又は下回る結果であった。

※1 全国・北海道の平均値：令和元年度学校保健統計調査

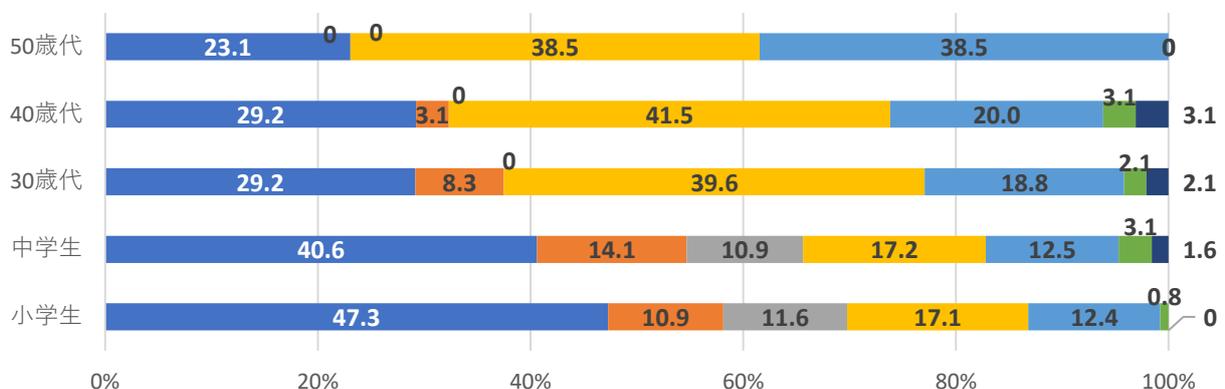
3. 客観的体格評価

問4 あなたの（お子さんの）体型についてどう思いますか。

客観的体格評価

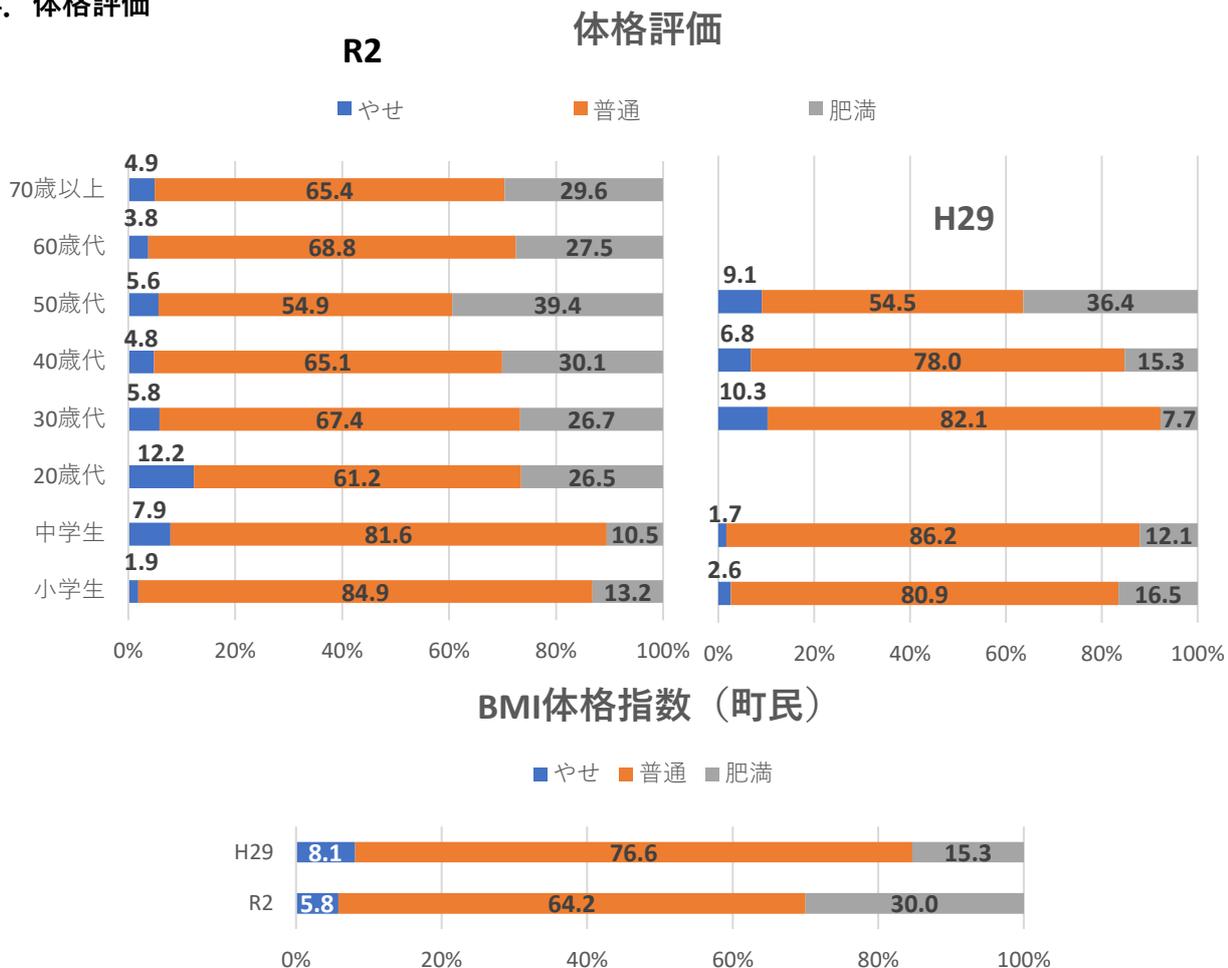


客観的体格評価（H29）



体格について、「ちょうどいい」と思う小・中学生はともに約40%で、H29年度と比べるとどの項目もほぼ横ばいであった。年代別で見ると「（少し）太っている」と思う割合は、50歳代で最も高く、「（少し）やせている」と思う割合は70歳以上で最も高い結果であった。H29年度と比べると、「ちょうどいい」と思う割合はどの年代でも低下しており、実際の体格よりも、やせ又は肥満だと認識している割合が多い結果であった。

4. 体格評価



H29年度と比べ、小学生は「普通」と判定される割合が高かった。中学生は「普通」「肥満」の割合が低くなり、「やせ」の割合が高いという結果であった。年代別で見ると、「肥満」の割合は50歳代で39.4%と最も多かった。H29年度と比べると、「肥満」の割合が30歳代では約3倍、40歳代では約2倍、町民全体では約2倍ほど高い結果となった。

○体格評価
 身長・体重ともに記入のあった回答から、小・中学生は肥満度※1を、保護者はBMI※2を用いて計算し、体格の判定を行った。

※1 肥満度 (%) = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100
 【児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改訂）を用いて身長別標準体重を算出】
 <判定> - 20%以下：やせ傾向 - 20%～20%未満：普通 20%以上：肥満傾向

※2 BMI (Body Mass Index) = 体重 (kg) / (身長[m] × 身長[m])
 <判定> BMI < 18.5：やせ 18.5 ≤ BMI < 25.0：普通 BMI ≥ 25.0：肥満

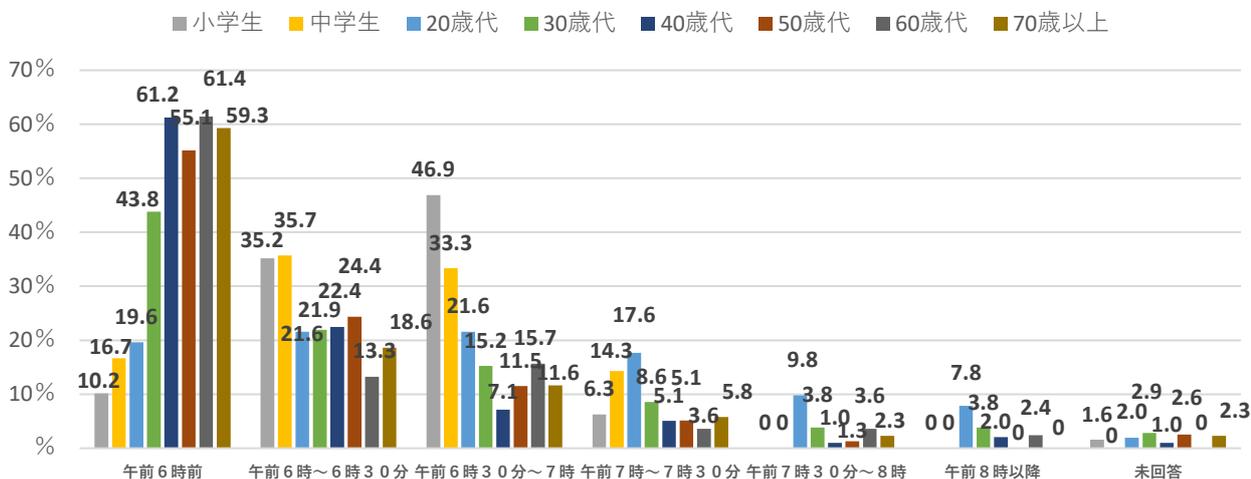
* H29年度の年齢別体格評価のグラフより、20歳代、60歳代、70歳以上の値は対象人数が1～2名と少なく評価できないため空欄としており、以下H29の年代別グラフも同様とする。

5. 起床時間・就寝時間

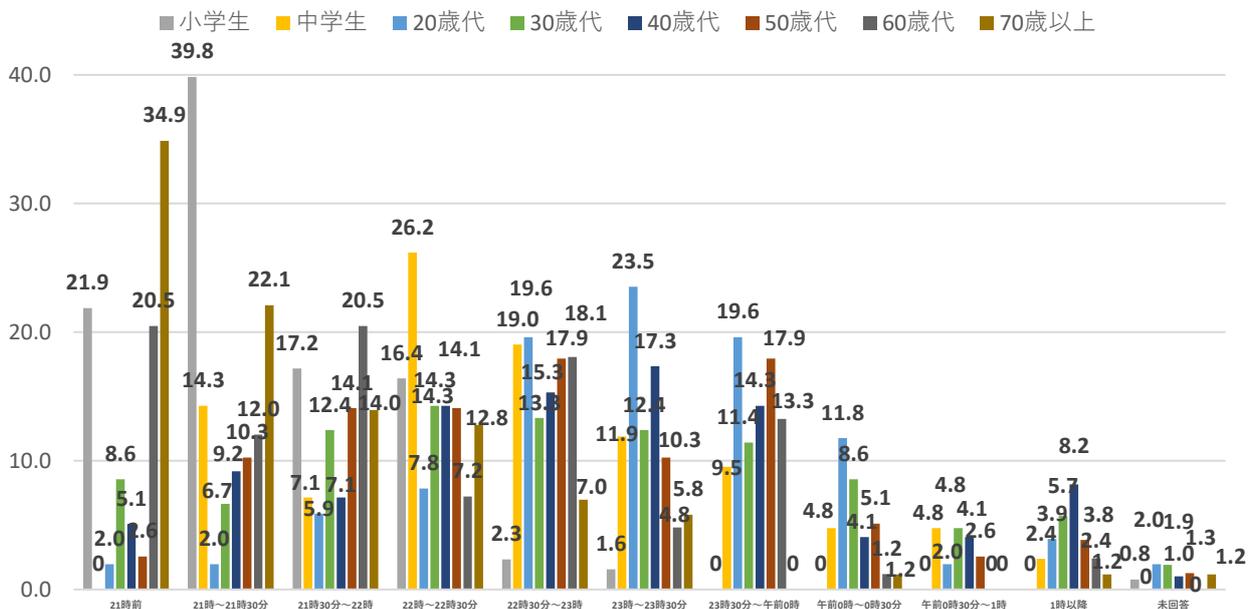
問5 あなたは（お子さんは）平日（月曜日～金曜日）何時に起きますか。

問6 あなたは（お子さんは）平日（月曜日～金曜日）何時に寝ますか。

年代別起床時間



年代別就寝時間



起床時間については、小学生で「午前6時30分～7時」、中学生で「午前6時～6時30分」がピークで、7時までには80%近くが起床していた。町民は20歳代以外の全年代で「午前6時前」がピークであった。就寝時間については、小学生で「21時～21時30分」、中学生で「22時～22時30分」、町民の最も遅い年代は50歳代で「23時30分～午前0時」、最も早いのは70歳代で「21時前」であり、年代でバラつきはあるが年齢層が上がるにつれて早寝の傾向であった。H29年度の中学生のピークが起床時間「午前6時30分～7時」、就寝時間「22時30分～23時」であり、20・30・40歳代のピークも前回に比べて早いことから、中学生と20・30・40歳代の早寝早起きの傾向が見られた。

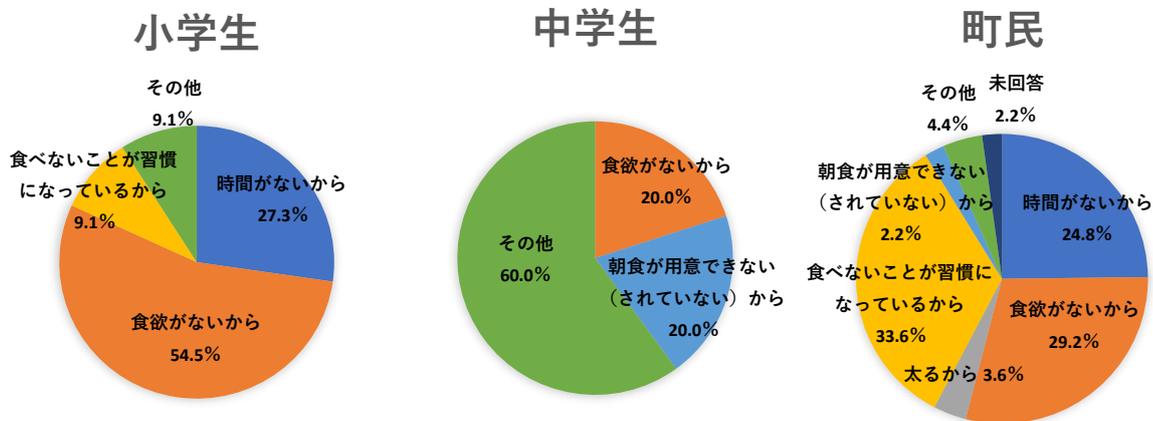
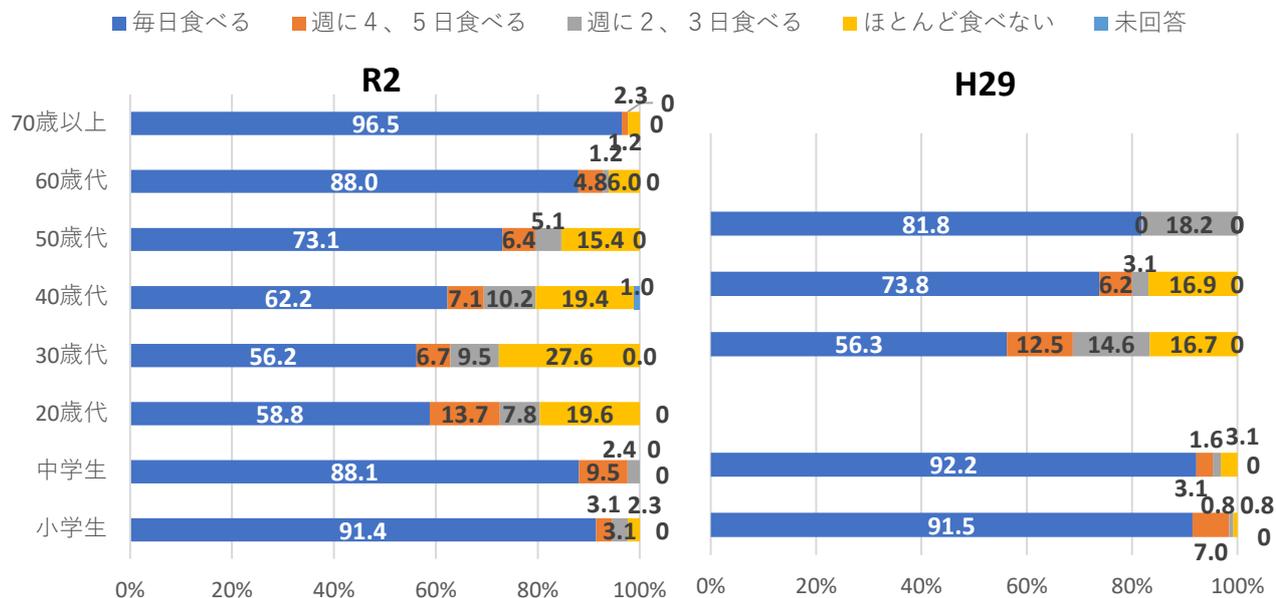
6. 朝食摂取状況・欠食理由

Ⅱ. 食生活について

問1 あなたは（お子さん）は週に何回朝食を食べますか。

問2 その理由はなんですか。

年代別朝食摂取状況



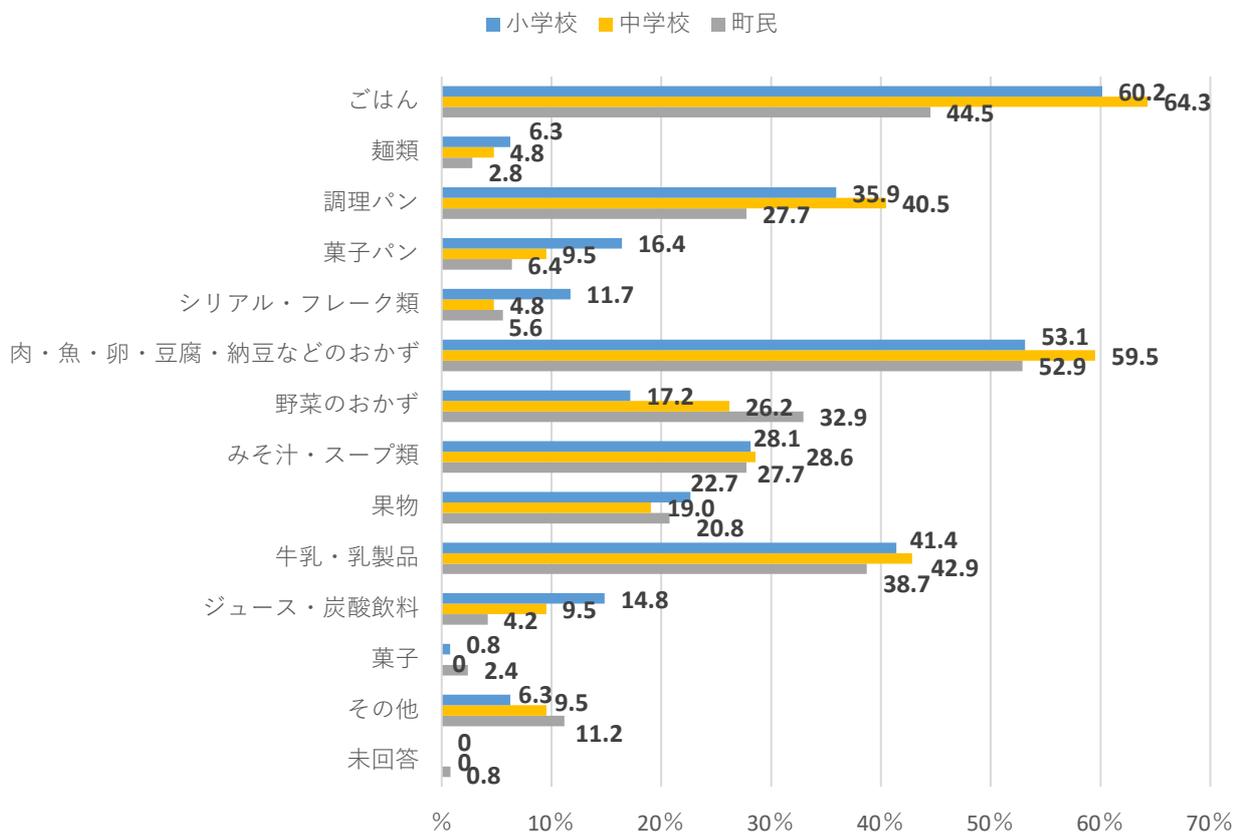
朝食摂取状況はH29年度と比べると、「毎日食べる」割合が小学生は横ばい、中学生は低い結果となった。町民では30歳代で横ばいなものの、40歳代・50歳代で低かった。また、「ほとんど食べない」割合は小学生、30・40・50歳代で増加傾向であった。

欠食理由については、小学生で「食欲がないから」、中学生で「その他」が最も多く、寝ていてお腹が空かない、食べるとお腹が痛くなる等の理由であった。町民では「食べないことが習慣になっているから」が最も多く、どの年代も朝食のない生活が習慣化されている結果となった。

7. 朝食内容

問3 あなたの（お子さんの）今日の朝食の内容を教えてください。
 当てはまる番号を全て選んでください。
 ※朝食を食べていない場合は空欄で結構です。

年代別朝食内容



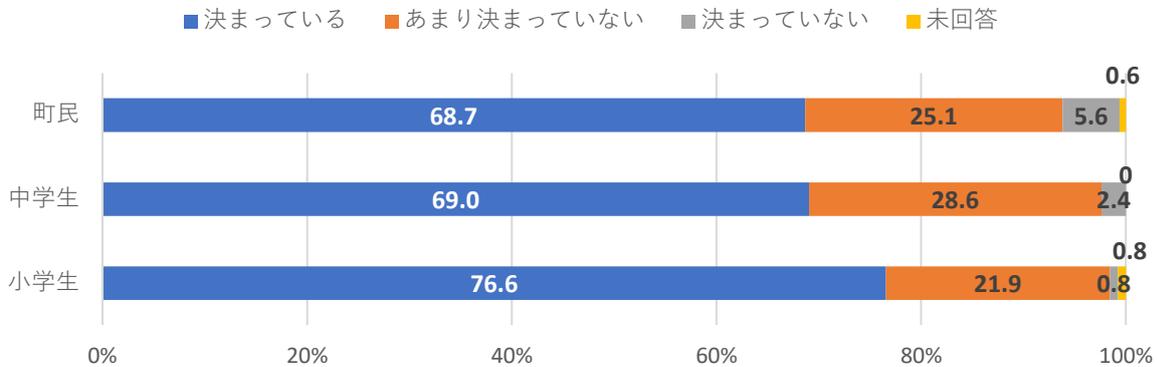
朝食内容は、「ごはん」、次いで「肉・魚・卵・豆腐などのおかず」が多い結果となった。町民のみ「ごはん」が4割、その他「麺類」や「調理パン」「菓子パン」等の主食も小・中学生に比べて低い割合が多く、H29年度と比較しても「ごはん」（64.4%→44.5%）、「麺類」（4.8%→2.8%）、「調理パン」（33.7%→27.7%）、「菓子パン」（2.9%→6.4%）とほとんどの主食で低くなり、朝食に主食を摂取する割合が低い結果となった。

小学生では、野菜のおかずが全年代で最も少なく、ジュースや炭酸飲料を摂取する割合が最も多かった。

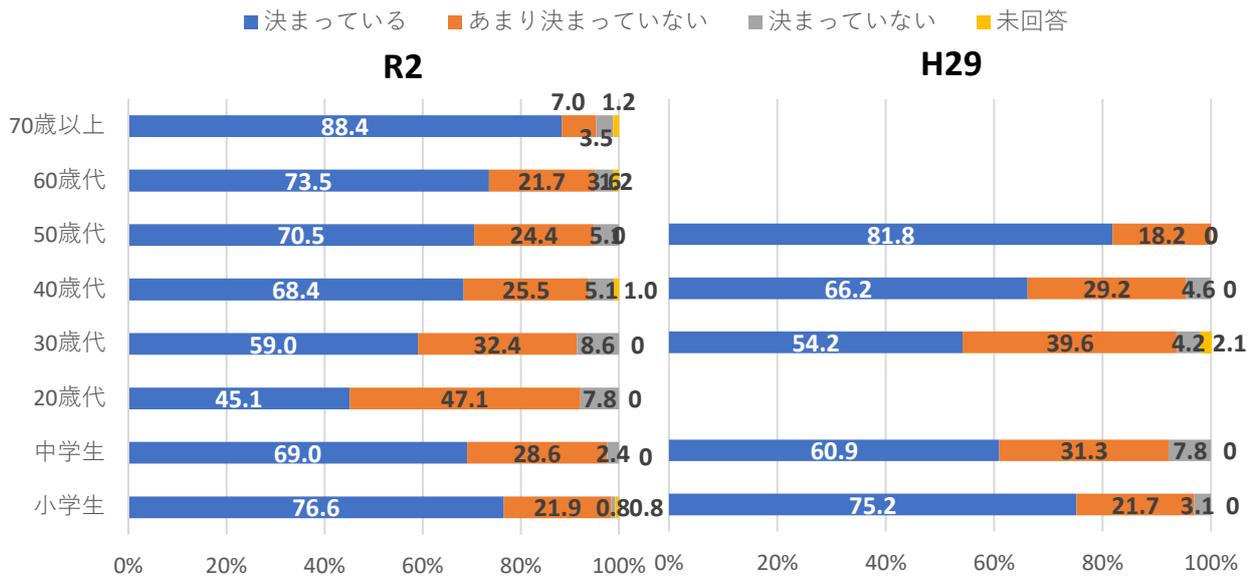
8. 食事時間

問4 あなたの（お子さんの）食事時間は決まっていますか。

食事時間



年代別食事時間

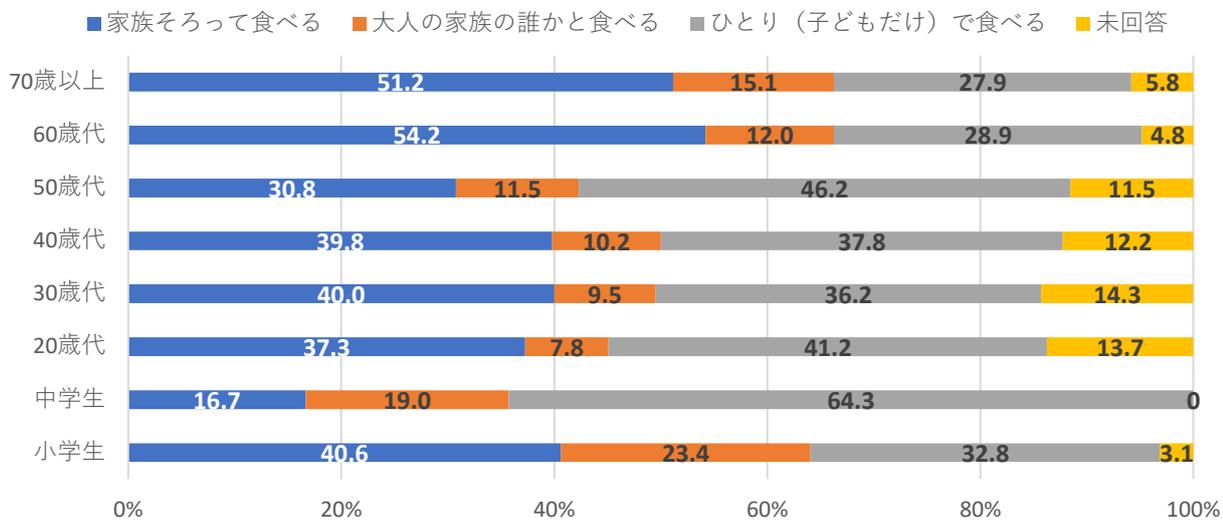


食事時間が「決まっている」割合は、小学生で7割、中学生と町民で6割であった。H29年度に比べ小学生で横ばい、中学生で高い結果となった。また、町民を年代別にみると、食事時間が「決まっている」割合が最も低いのは20歳代、最も高いのは70歳以上であり、20歳代の約2倍であった。唯一、20歳代のみ食事時間が「決まっていない」割合の方が高かった。

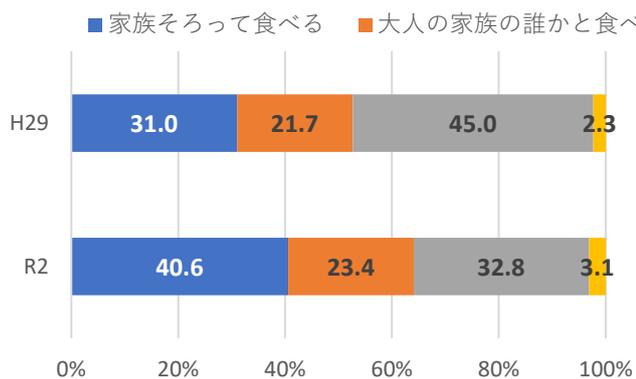
9. 共食状況

問5 あなたは（お子さんは）普段、どのように食事をしていますか。

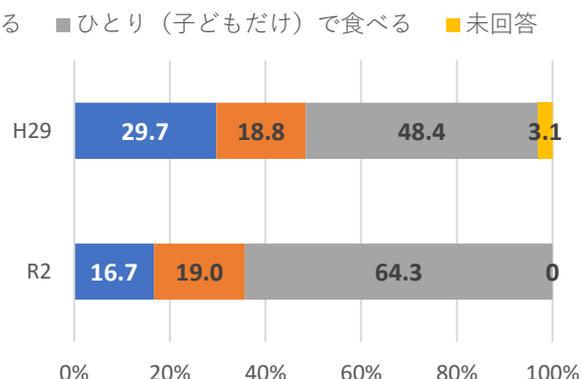
年代別朝食共食状況



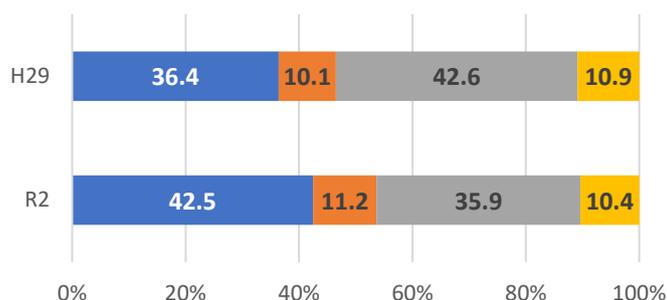
朝食—小学生



中学生



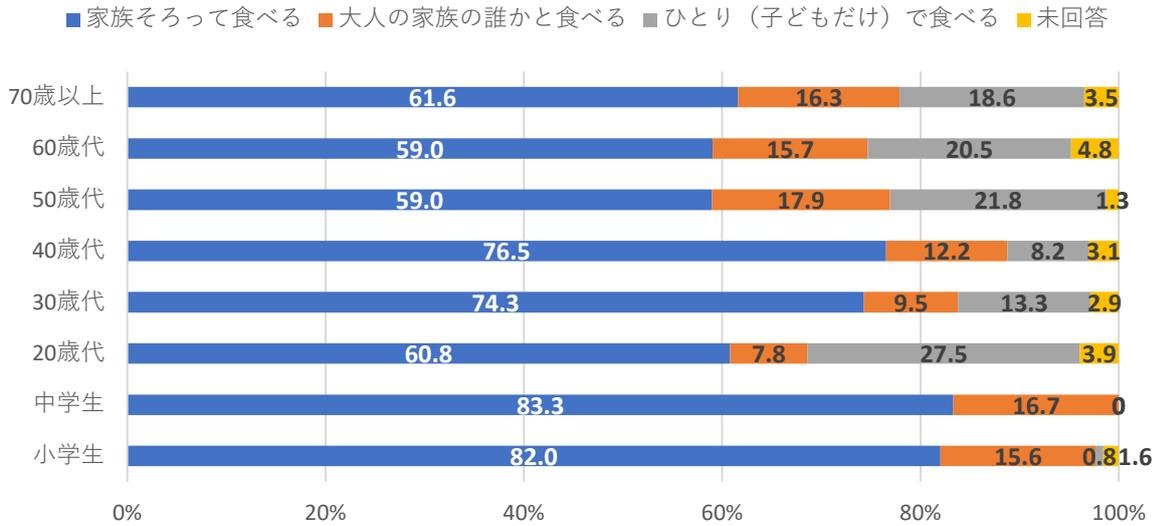
町民



朝食の共食状況について、「ひとり（子どもだけ）で食べる」割合が小学生は32.8%、中学生は64.3%と小学生の2倍の割合であった。町民では、50歳代が最も高く、20・30・40・50歳代で約4割、60・70歳以上で約2割であった。

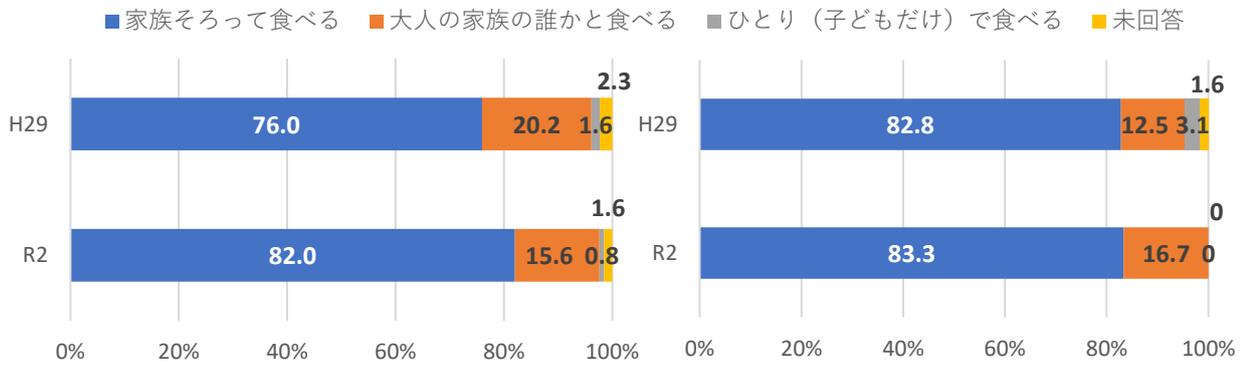
H29年度と比較すると、小学生・町民では孤食の割合が減少したものの、中学生で増加し、6割以上が孤食状況であった。

年代別夕食共食状況

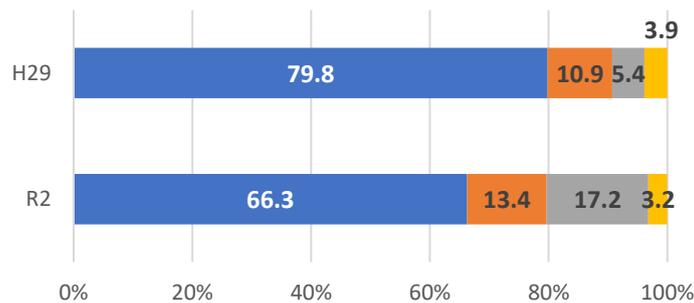


夕食—小学生

中学生



町民



夕食の共食状況については、小・中学生でほとんどの人が家族そろって又は大人の家族の誰かと食べており、町民では「ひとりで食べる」割合が20歳代で最も高い結果となった。

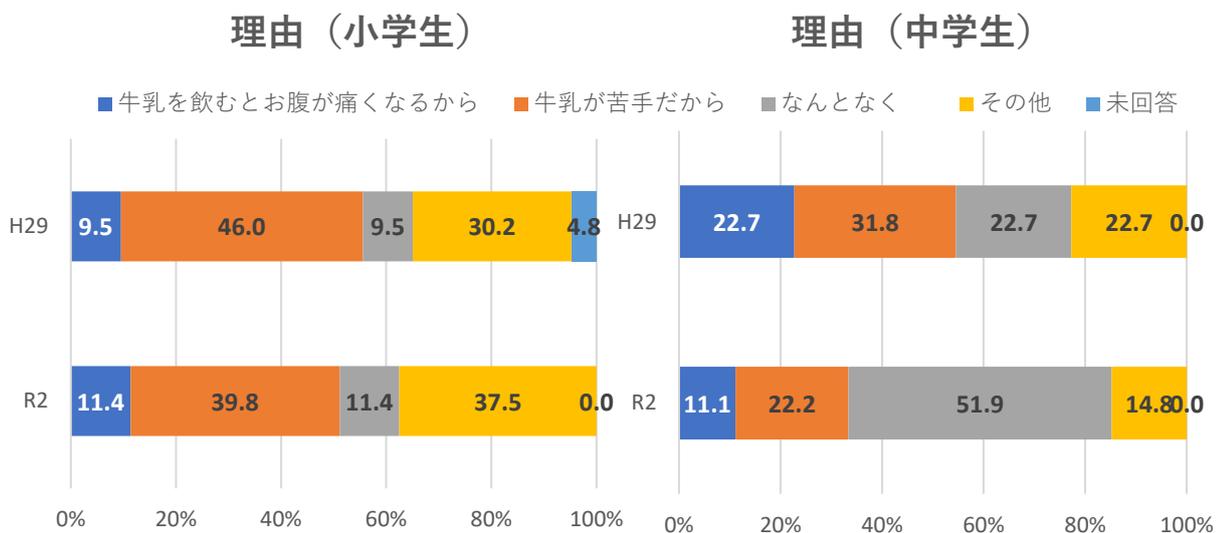
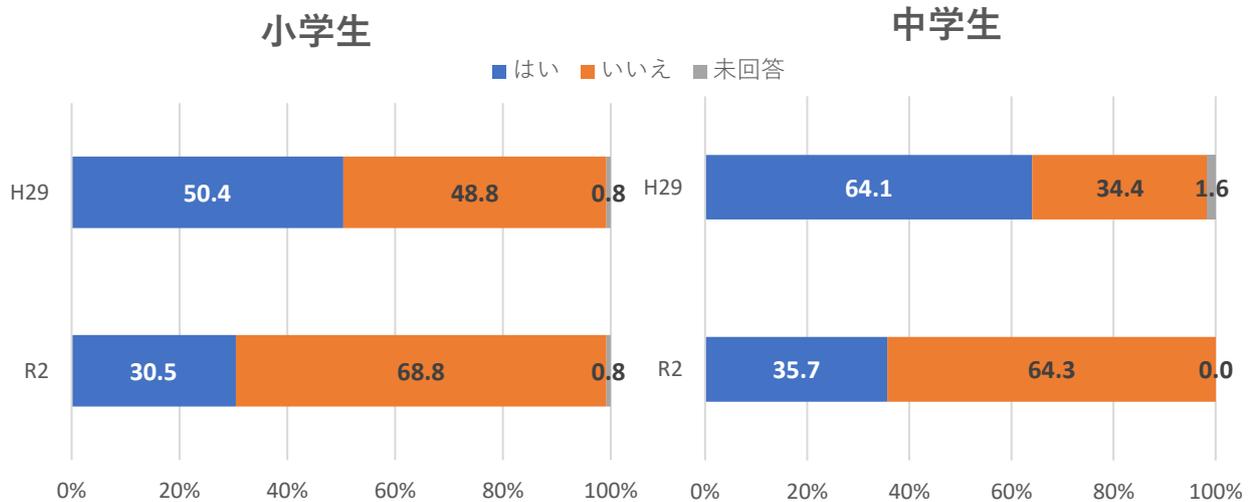
H29年度と比較すると、小・中学生での孤食は低くなり、家族そろって夕食を食べる割合がともに高かった。町民では、「ひとりで食べる」割合がH29年度の約3倍高いという結果であった。

10. 昼食時の牛乳摂取状況・理由

問6 あなたは（お子さんは）学校でお昼時間に牛乳を飲んでますか。

問7 その理由は何ですか。

【小・中学生のみ】



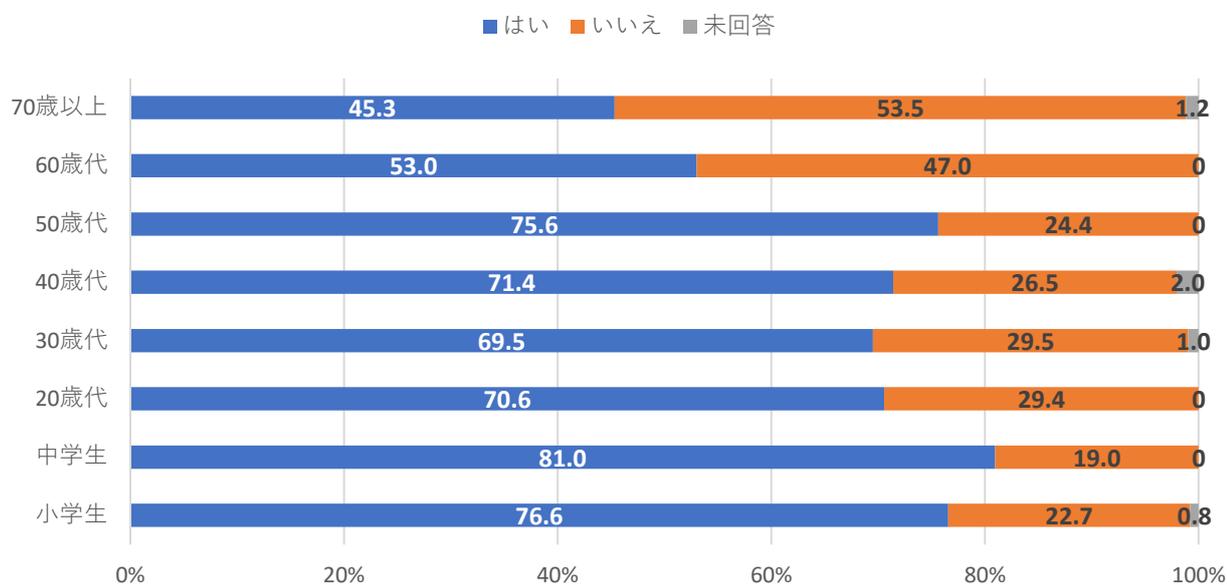
学校で牛乳を飲む割合は、H29年度に比べて大きく下回り、小・中学生ともに半数以下であった。

牛乳を飲まない理由としては、小学生では「牛乳が苦手だから」、中学生では「なんとなく」が最も多い結果であった。H29年度と比べると、小学生ではどの項目も横ばい、中学生では「なんとなく飲まない」割合が高かった。その他の意見としては、学校の牛乳の味が苦手、まずいからという理由が最も多かった。

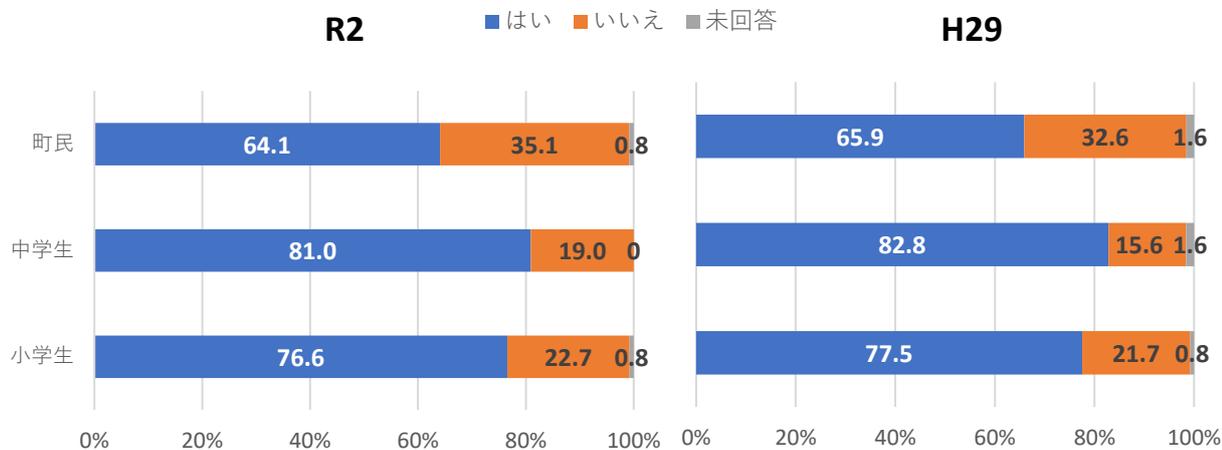
11. 夜食摂取状況

問8 あなたは（お子さんは）夕食を食べてから寝るまでの間に飲食しますか。

年代別夜食摂取状況



夜食摂取状況



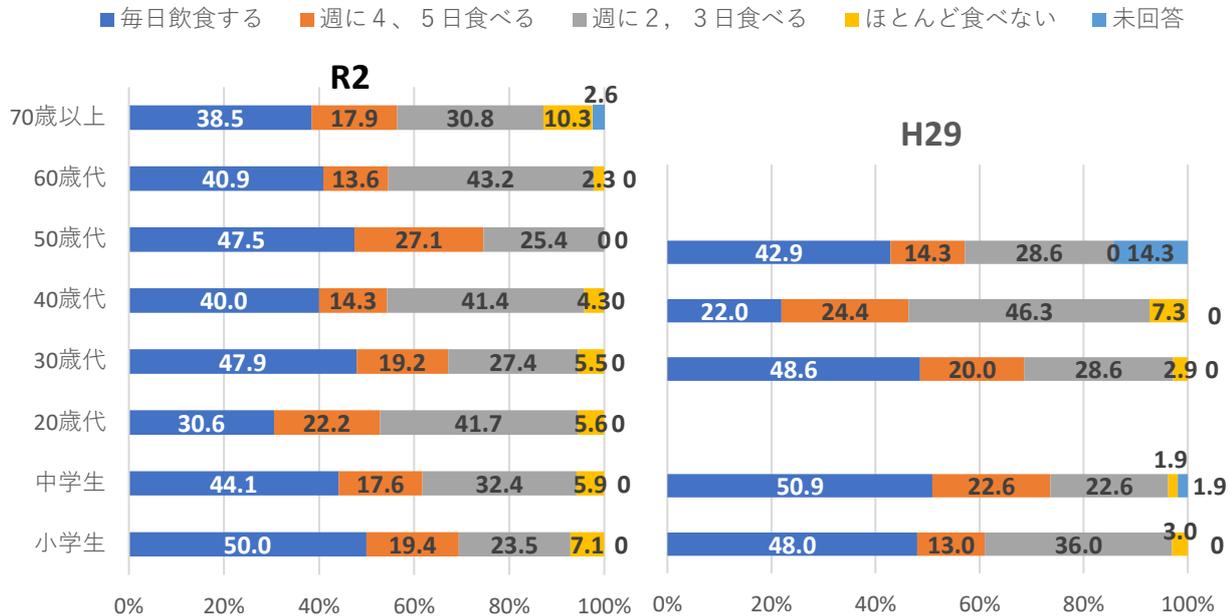
夜食状況は、小・中学生で70%以上が夜食を食べており、町民も20・30・40・50歳代で同様の結果であった。

H29年度との比較では、小・中学生、町民ともに横ばいであった。

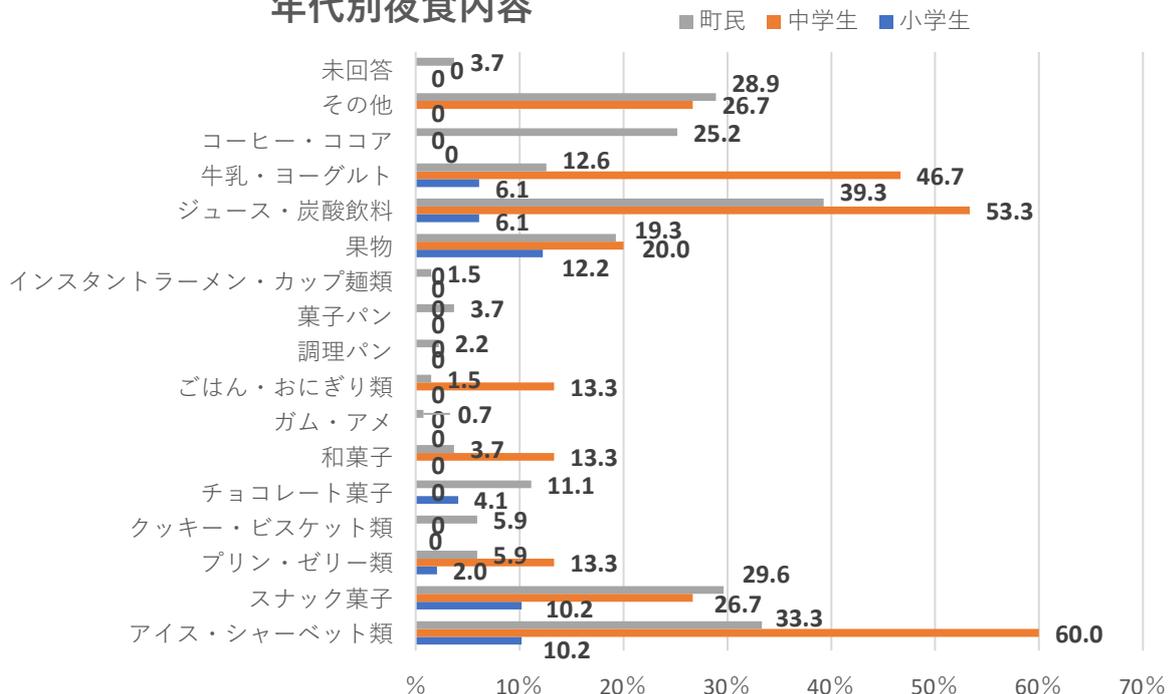
12. 夜食摂取頻度・内容

問9 週に何回飲食しますか。
問10 どんなものを飲食しますか。

年代別夜食摂取頻度



年代別夜食内容



夜食の頻度については、H29年度と比べて小学生では横ばい（48.0%→50.0%）、中学生では低い（50.9%→44.1%）結果であった。町民では、どの年代でも約3～4割ほどが夜食を毎日食べており、H29年度と比較すると、40歳代で約2倍高く、その他は横ばいの結果であった。夜食内容は、小学生で「果物」、中学生で「アイス・シャーベット類」、町民で「ジュース・炭酸飲料」が最も多かった。

13. 給食の必要性・理由

Ⅲ. 給食について

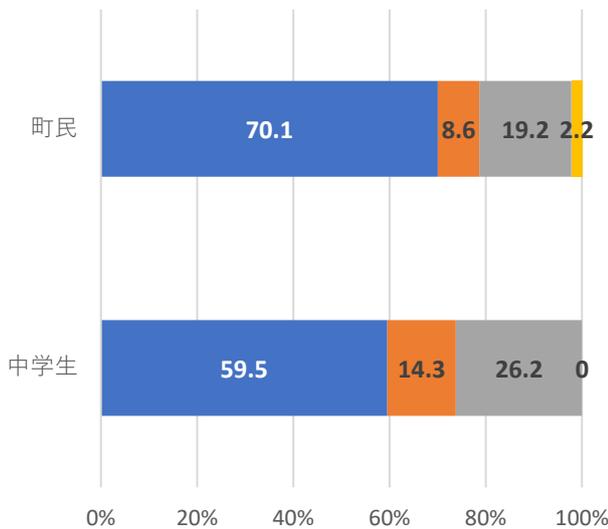
問1 学校給食は必要だと思いますか。

問2 それはなぜですか。

【中学生・町民のみ】

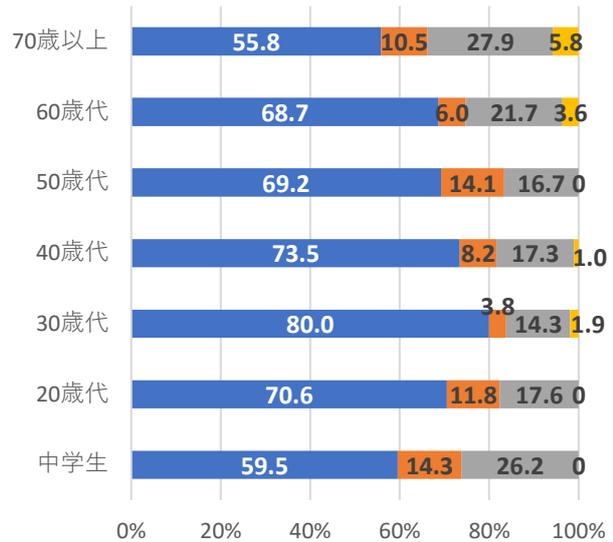
給食の必要性

■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 未回答



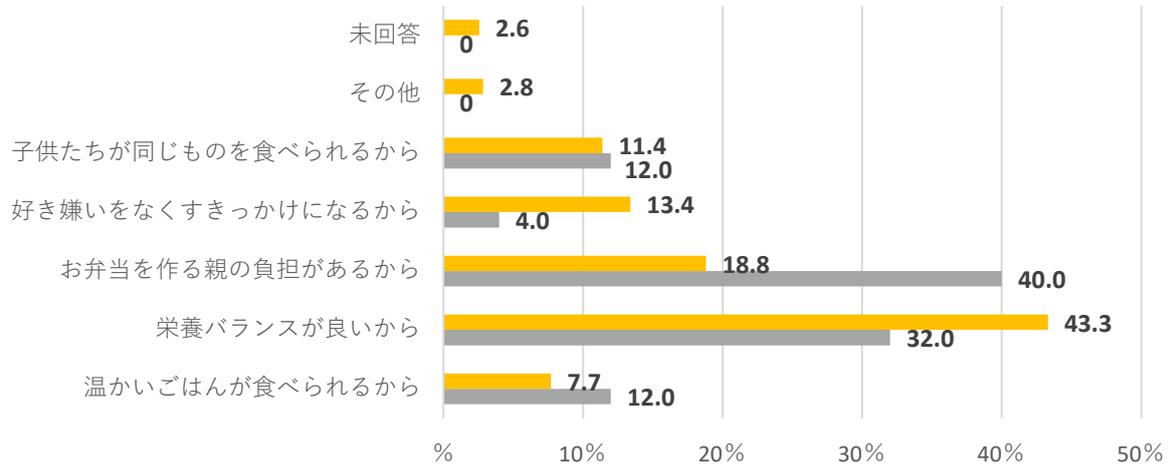
給食の必要性

■ はい ■ いいえ ■ わからない ■ 未回答



給食が必要な理由

■ 町民 ■ 中学生



学校給食の必要性について、「必要」と思う割合は中学生で約6割、町民で約7割であった。年代別で見ると、保護者世代で7～8割、その他の年代も半数以上が必要との結果であった。必要な理由について、中学生では「お弁当を作る親の負担があるから」、町民では「栄養バランスが良いから」の割合が最も多かった。

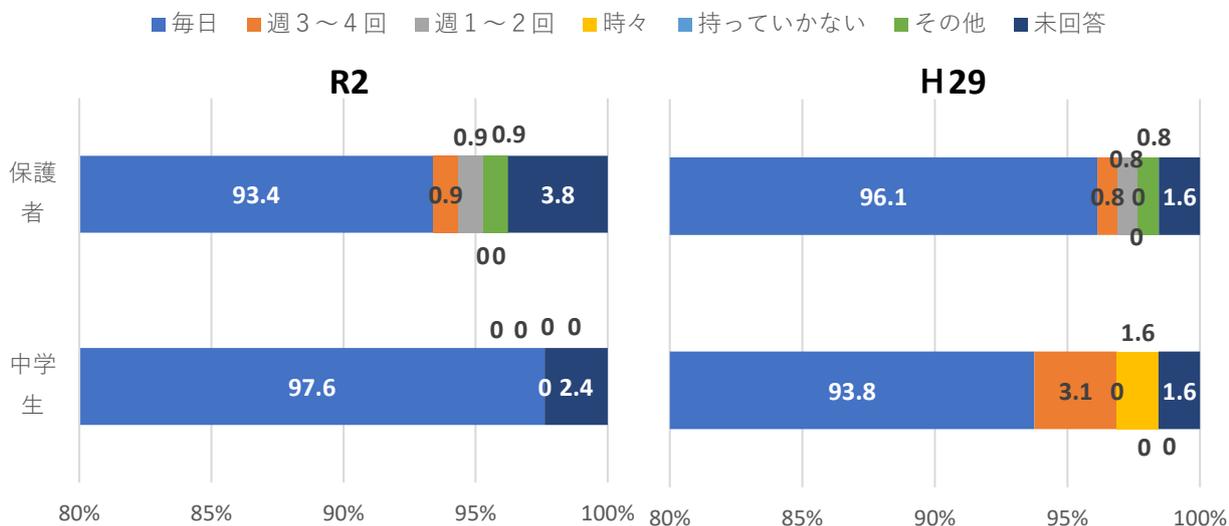
14. お弁当の頻度・その他の昼食

問3 あなたは週に何回くらい家庭で作ったお弁当を持っていますか。

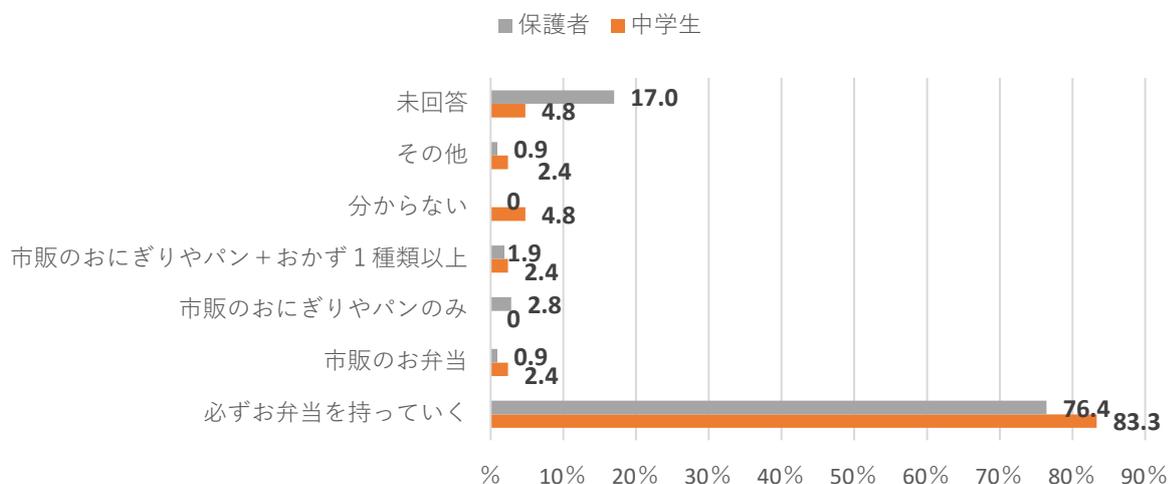
問4 家庭で作ったお弁当を持っていかない日は昼食に何を主に食べていますか。

【中学生・小中学生保護者のみ】

お弁当の頻度



お弁当以外の昼食



お弁当の頻度については、中学生で97.6%、（小学生の）保護者で93.4%と9割以上が家庭で作ったお弁当を持って行っている結果であった。H29年度と比較すると、中学生で高くなり、保護者で低かった。

お弁当以外の昼食については、中学生で「市販のお弁当」「市販のおにぎりやパン+おかず1種類以上」、保護者で「市販のおにぎりやパンのみ」が最も多かった。

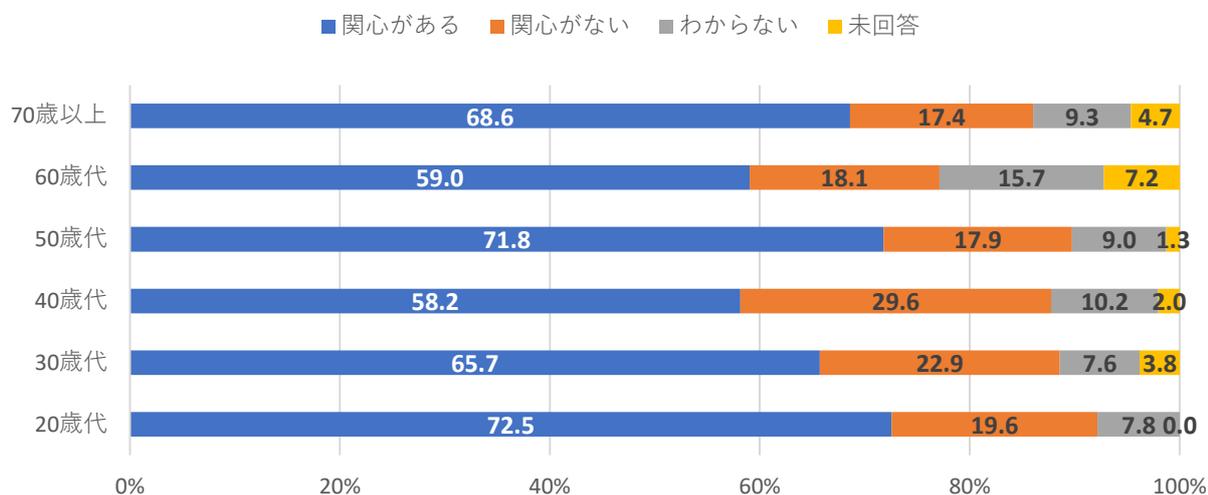
15. 食育への関心度

IV. 食に対する意識について

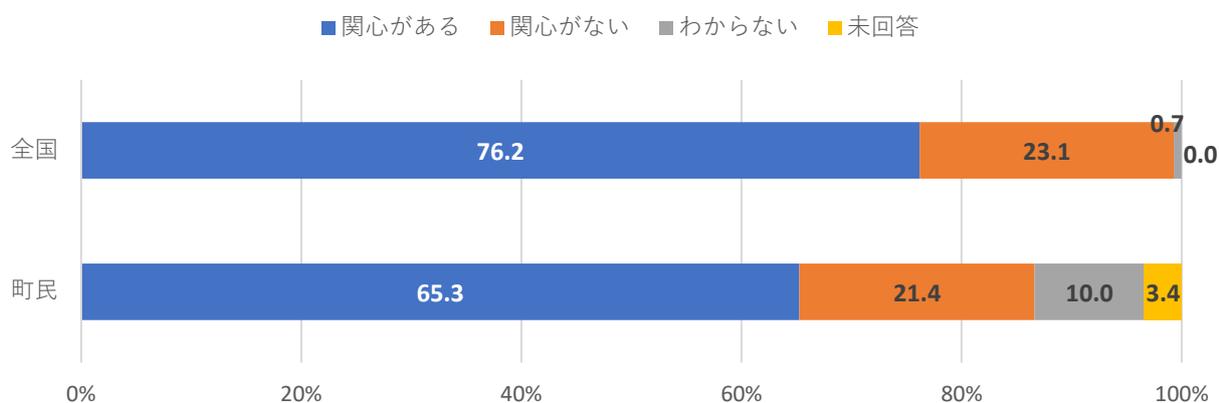
問1 あなたは食育に関心がありますか。

【町民のみ】

食育への関心度



食育への関心度（全国と比較）



食育への関心度は、20歳代が72.5%と最も高く、40歳代で58.2%と最も低い結果であった。全ての年代で5割を超えているものの、全国に比べて、食育への関心度は低い結果であった。

* 「関心がある」…「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した合計の割合

「関心がない」…「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と回答した合計の割合を記載

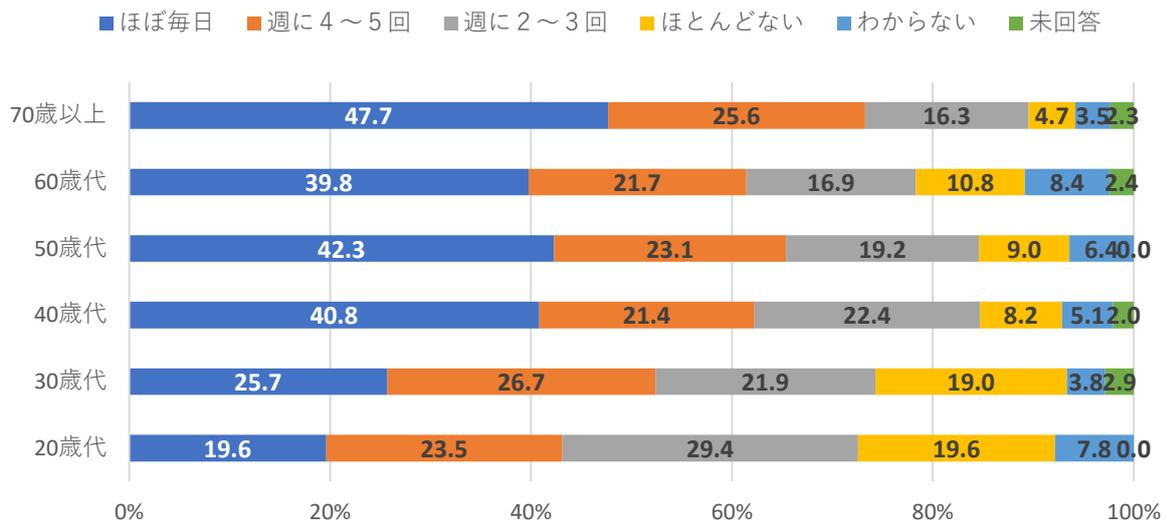
※全国のは、令和元年度食育の現状と意識に関する調査の数値を記載

16. 栄養バランスに配慮した食生活

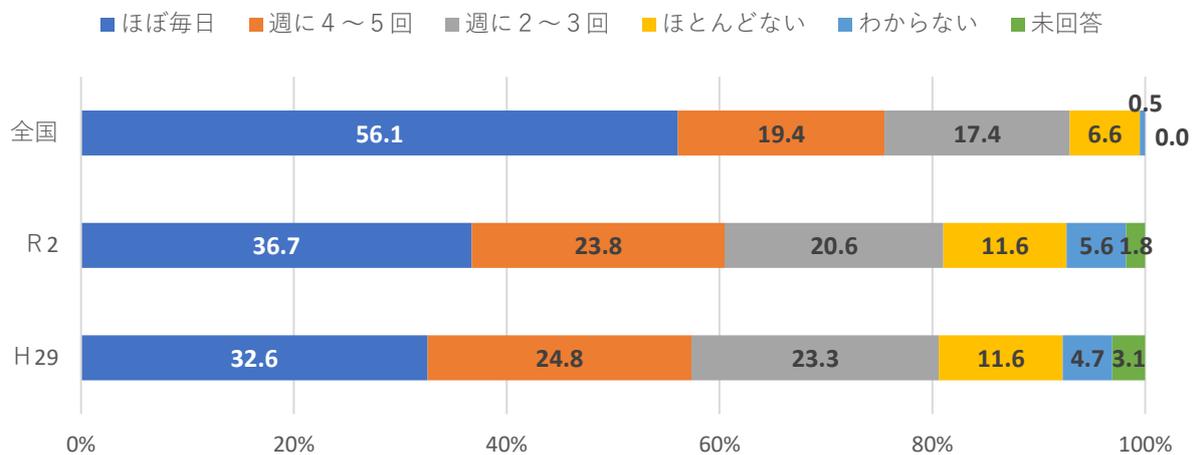
問2 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉・魚・卵・大豆などを使ったメインの料理）・副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢、小皿の料理）を3つそろえて食べることが、1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。

【町民のみ】

栄養バランスに配慮した食生活



栄養バランスに配慮した食生活



主食・主菜・副菜の3つをそろえて1日2回以上食べる頻度が「ほぼ毎日」の割合は、70歳以上で47.7%と最も高く、20歳代で19.6%と最も低い結果となった。年齢層が上がるにつれて栄養バランスに配慮する人が多かった。

H29年度に比べると、「ほぼ毎日」食べる割合は高くなったものの、全国と比較すると大きく下回る結果であった。

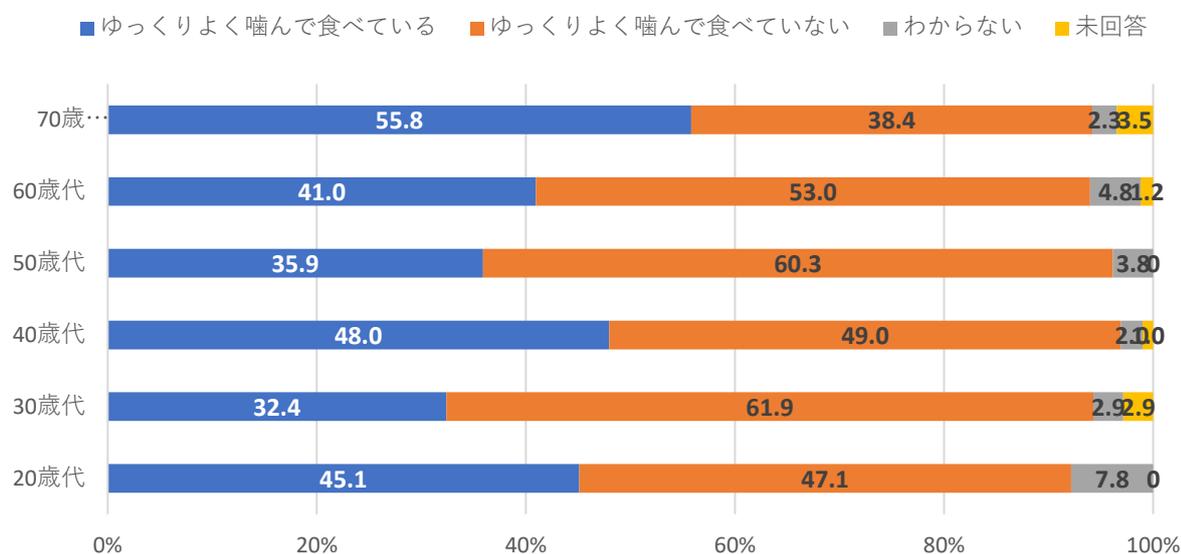
※全国の値は、令和元年度食育の現状と意識に関する調査の数値を記載

17. ふだんゆっくりよく噛んで食べているか

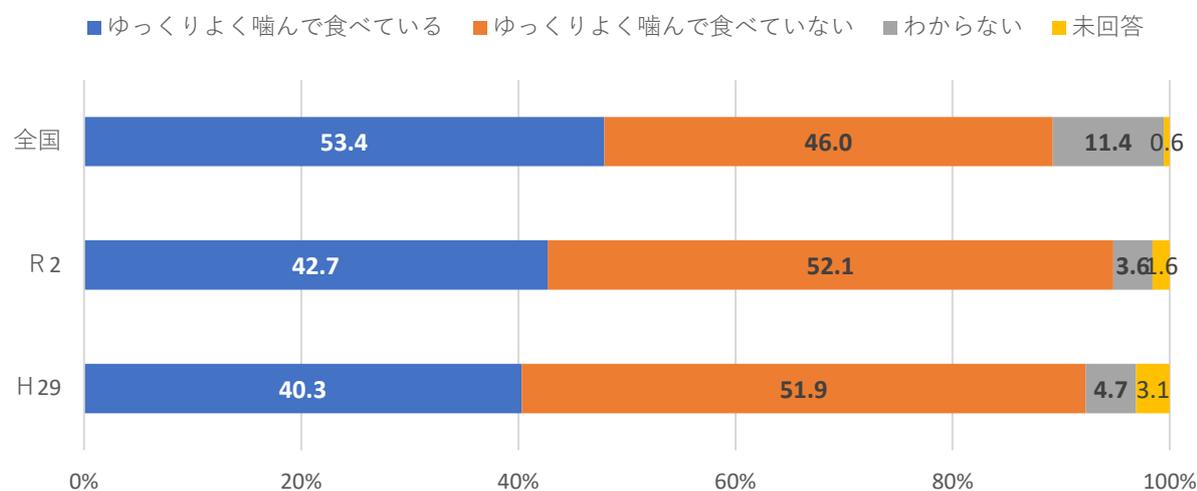
問3 あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。

【町民のみ】

ふだんゆっくりよく噛んで食べているか



ふだんゆっくりよく噛んで食べているか



「ゆっくりよく噛んで食べている」割合は、70歳以上で55.8%と最も多く、30歳代で32.4%と最も低い結果となった。

H29年度に比べて高くなったものの、全国値よりも下回る結果であった。

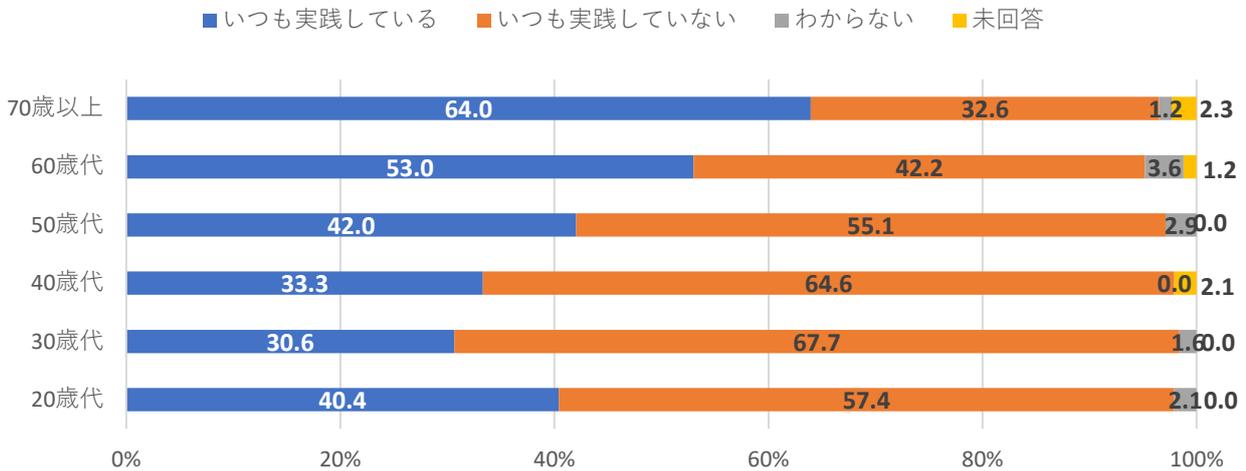
* 「ゆっくりよく噛んで食べている」…「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」回答を含む割合
「ゆっくりよく噛んで食べていない」…「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」回答を含む割合を記載

※全国値は、令和元年度食育の現状と意識に関する調査の数値を記載

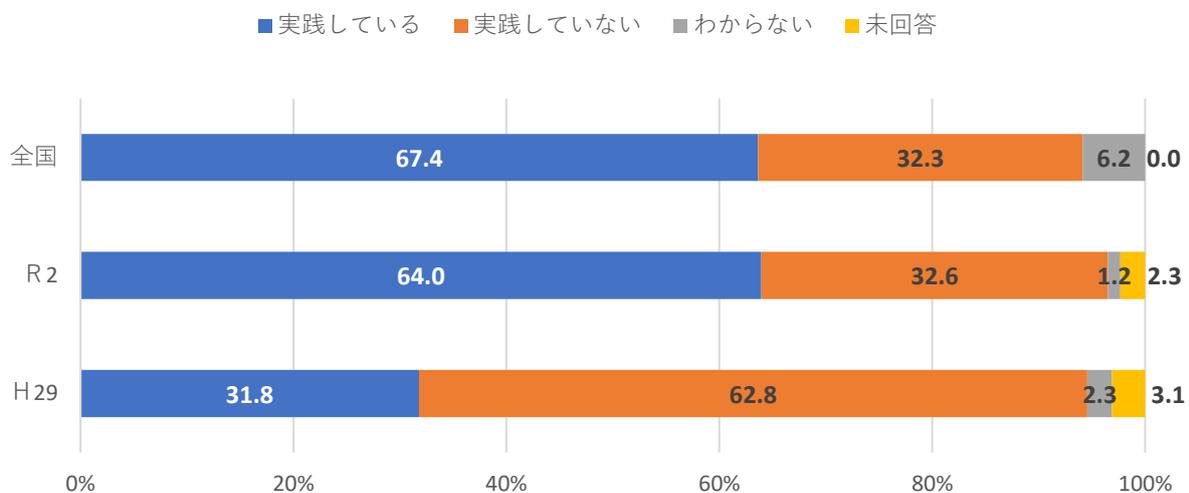
18. 生活習慣病予防や改善に関する実践

問4 あなたは普段から適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践していますか。
【町民のみ】

生活習慣病予防や改善に関する実践



生活習慣病予防や改善に関する実践



普段から適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を「実践している」割合は、20歳代で4割を超えているものの、30歳代の30.6%が最も低く、年齢層が上がるにつれて高い傾向であった。

H29年度と比べると大きく上回ったものの、全国の数値には届かない結果であった。

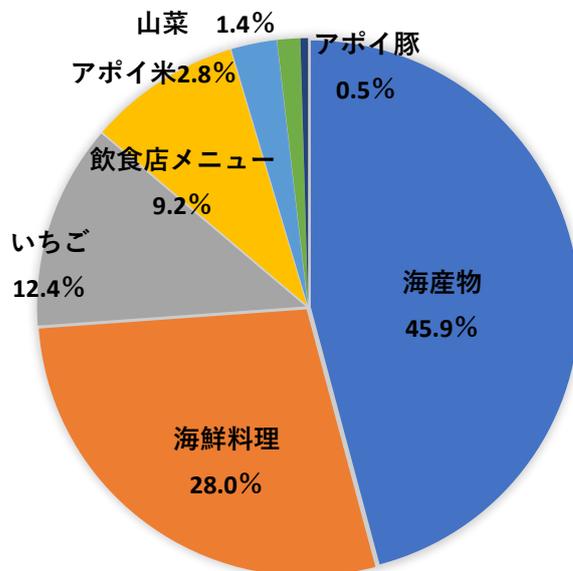
※全国の数値は、令和元年度食育の現状と意識に関する調査の数値を記載

19. 残していきたい様似の食べ物・料理

V. その他

問1 これからも残していきたい様似の食べ物・料理を教えてください。

残していきたい様似の食べ物



海産物 (昆布、つぶ、たこ、鮭、いくら、魚、貝類、春ウニ、ふのり、まつも、かに、ハタハタ、カレイ、山漬け等)	100名
海鮮料理 (つぶめし、たこマンマ、つぶカレー、いずし、昆布巻き、つぶラーメン、サメガレイの切りこみ、つぶとじ井、石狩鍋、ちゃんちゃん焼き、けんちん汁、昆布そば、三平汁、昆布の佃煮、めふん等)	61名
イチゴ	27名
飲食店のメニュー (中村のおやき、工藤商店のたこマンマ・鶏足、弁慶の寿司、百両のホルモン、水鶏のラーメン、女郎花の茶碗蒸し等)	20名
アポイ米	6名
山菜	3名
アポイ豚	1名

20. 食育に関するご意見・ご感想

問2 様似町の食育活動でやってみたいことや聞きたいこと、食育に関するご意見・ご要望がありましたら、お書きください。

《小学生（の保護者）》

毎年田植え稲刈りをやりたいです。様似で色んなフルーツを作ってなにか（クレープ・パフェ）を作りたいです。
食育活動は実際に自分たちで育てて成長過程やどのようにして家庭にきているのかを知るのも大切だと思います。給食にし、子ども同士が同じものを食す事で苦手な物を克服してくれるものだと思っています。
置戸町のような地元のものを使ったおいしい給食を採用してほしい。
様似町の特産物、新鮮な魚、農産物、美味しい物が沢山あるのでぜひ給食にして子どもたちに食べさせてあげたいです。
弁当持参だとどうしても栄養面がかたよってしまう子が出てきてしまうと思います。好き嫌いを克服するためにも週に一度で良いので全員同じメニューで食べられるようなシステムにはできないのでしょうか。
様似ではアポイだけでなく、たくさんの美味しい物があります。地場産物に関心を深める目的にもなるので、給食を強く求めます。
学校給食が早く実現してほしいと思います。クラスみんなで配膳をして同じものを温かい状態で食べる事も食育活動の中で大事だと思います。その中でごはんやおかずなどの栄養素は身体にとってどんな役割を持っているのか学べるのではないのでしょうか？牛乳給食は給食とは呼べないと思います。毎日お弁当を作るのも楽なものではないです。
給食の早期開始を願います。栄養バランスも整い、偏りがちなお弁当よりも温かい昼食を食べられる方が良いです。3食のうち1食が給食になっても母親の愛情は感じられます。ワーキングママの負担軽減、子供との会話時間が増える等々、子育て世代へもう一歩歩み寄ってほしいです。給食を同年代のお友達と食べる事も食育につながると思います。
私自身小中と給食育ち、家では食べず嫌いだったものも沢山あります。親が作るお弁当ももちろん良いですが、働くお母さんが多い町でなぜずっとかたくなに給食にしていただけないのでしょうか。町でとれた食品を使っての給食を希望します。
様似町の食育活動とは何ですか？食育と言っているわりには、少ない子供たちのために率先して活動してくれているようには感じません。道内にはたくさんある小中学校で実施されている給食をどうして様似町では出来ないのでしょうか？学校を建て替えた時点で検討して行動に移すべきだったのでは。うちは毎日お弁当ですが、パンしか持ってきていない子など、色々な話も聞きます。体の健康だけでなく、心の健康にも影響は大きいんじゃないかと思います。町のアンケートでも給食が1番多かったし、一歩踏み出してほしいと思います。
子供たちに楽しんでもらうのと、町内の飲食店応援の意味で定期的に昼食を有料で作ってもらう。その日は親もお弁当作りから逃れられる。

学校給食の早期開始を願っております。共働き家庭が多い今、朝食の時間も一緒に食事をすることで、会話する時間を増やし、子供との時間に繋げていけば寂しい思いも減ると思います。お弁当作りで朝の時間は家事や仕事の準備等で慌ただしくゆっくり顔を見ることもできません。現代のニーズに合う形を取ってほしいです。子育て世代が生きやすい町づくりをお願いします。

給食にしてほしい。小中ともにお弁当を食べる時間が足りない。ゆっくり食べられる工夫をしてほしい。時間がないと言ってほぼ毎日残してくる。たまにけっこう食べてきたときは時間があったと言っている。15分とってくれている様だが、日によってまちまちじゃなくして欲しい。

様子町の小学校と中学校はお弁当で、毎日おいしいお弁当を食べられる人は良いけど、毎日コンビニで買った物を食べてたり時々コンビニで買った物を食べてたりしたら、すこしでも栄養バランスがくずれちゃうからそれだったら給食を出した方が良いと思う。

給食があると、みんな同じものを食べて好き嫌いをなくすきっかけになるので良いと思います。

置戸町のような給食にして欲しい。忙しいからか子どもの好き嫌いが多からなのか、栄養は大丈夫なのか？というお昼の子がいるようです。

給食の件は私達の親の時代からも議論されてきたと聞きました。何十年もかけてアンケートを取ったり話し合いがされてきたのに、全く進展を感じません。町にその気がないということの表れだと感じています。給食にする気が無いのならそのような考えはありませんと伝えたらよいのではないのでしょうか。何度アンケートに回答すれば良いのでしょうか。まったく変化がないのに。もういい加減不快です。

自分が子どもの頃から（30年前）給食を望む声があったのに未だに給食になっていないこと。夏は食中毒が心配。

給食があればみんな同じものを食べるので好き嫌いをなくすきっかけになるから良いと思います。

給食で様似の食材を使ったものを見てみたい。他の市町村でやっているのを見る度に「様子ではできない…」と落胆する。これが一番の食育だと思うのですが。

他、給食を食べさせたい、給食にしてほしい等（17名）

《中学生》

アスリート（トレーナー）の食事についてのセミナーを開いてほしい。中学生の食生活についてもやってほしい。今の中学生は朝食もとらない人がいるし、食事に興味がないから栄養がとれてなくて、比較的細っこい人が多いからもっと食事に興味を持ってもらえるような生活をしてほしい。
地元で作ったものでの料理教室
給食にしてほしいです。給食が食べてみたい。
給食の方が親に負担がかからないので良いと思います。
様子町の小学校と中学校はお弁当で、毎日おいしいお弁当を食べられる人は良いけど、毎日コンビニで買った物を食べてたり時々コンビニで買った物を食べてたりしたら、すこしでも栄養バランスがくずれちゃうからそれだったら給食を出した方が良いと思う。
給食の方が親に負担がかからないので良いと思います。
他、給食を食べてみたい（1名）

《町民》

大人より先に子どもの食育を考えれば良い。
料理教室（子どもと一緒に）
生の素材（魚等）に触れて美味しく食べる活動
子供から高齢者、誰でも気軽に利用できるカフェやランチ等利用できる小さな店があると良いですが…
さまに広報やお知らせ版に、食べ物の事や栄養の事を少しずつのせて活用できると思います
親子向け料理教室など、家族で食育について学べる機会があれば良いなと思います。 （夫婦のみや親のみ等でも可）地域の食材や活動について家族で知ることができたら など考えます。
イクラやタコの加工場での1日体験等。
生産者に感謝する、残さず食べる（残さないよう適量を用意して食べる）以上の2点 だけでも教えてほしい。
料理が苦手な人の料理教室、魚の捌き方講習会などがあれば参加したいです。パンづ くり講習会も魅力的ですね。
地方の知人に対して様子と言え「これ」と言える名物があればとは思っております。 栄養価のバランスがとれた食事が食べられるレストラン等があれば良いと思います。 いっぱいあるけど文章では無理。
そもそも食育ってなに？ってレベル。
こども食堂的な事を小中学校で週に2回くらいしてみたい。
これから社会に巣立っていく年代（高校生位）を対象に料理教室をやってほしい。 （コンビニで扱っている程度の簡単なものと味噌汁等）

<p>町や学校でも色々な取組をされていますね。各家庭にも沢山の料理があると思います。昔ながらの郷土料理、そして母の味を残したいと活動している「まんまの会」の方々とかに子供達へ伝える場があると良いですね。</p>
<p>地場産の食材をもっと購入できる場所があれば良い。</p>
<p>子供の時から食育は必要、また親の意識・知識を育てることも必要。親とか大人の人たちが何をどう食べたら良いのか理解していない。食育の講座とかも必要になっていくのではないのでしょうか。</p>
<p>いまいち食育活動自体何をしているのか分かりません。昔は手作りし、仲良く一緒にごはんを食べ、おやつなども色々無かった方が良かったと思います。1日30種類とかサプリメントなど、テレビに翻弄されすぎている気がして、食育にこだわりすぎていませんか、そんな気がしています。</p>
<p>自分はアポイ豚を生産しています。一般の豚肉との食べ比べ会をやってみたいです。</p>
<p>活動がもっと広がりを見せたら良いと思います。</p>
<p>健康に必要なのは食と運動だと思っています。今回のアンケートはとても良いことと思います。次回は生活習慣病等、種類別にアンケートを考えるのいいと思います。</p>
<p>子ども食堂、おじいちゃんおばあちゃんと子ども達が一緒に作って食べたりできるイベントがあってもいいと思う。料理動画も良いが、子どもと一緒にできる提案や健康食についてあっても良いと思う。</p>
<p>食育活動に当てはまるか分からないが、今はなくなってしまった様似名物を復活させることができれば面白いと思います。知っているのは梅屋さんのオムレツケーキやQ&Qのシェイクなど。給食もあった方がいいと思う反面、難しいとも思う。ただ、子供たちが同じものを食べられるというのは、子供たちにとってすごく価値のあることだと思います。地域のをみんなで食べることができる。給食じゃなくてもそういう事ができると子供たちにとって良いのではないかと思います。</p>
<p>食育というと保育園や学校で行っているイメージだが、親が食育に興味がないと意味がないと思う。食育と関係があるか分からないが、様似の食材を使った料理（調理法）をもっと考えて欲しい。魚の捌き方から調理まで…等。</p>
<p>広報等で昆布や鮭のレシピを掲載したり、食育で習ったことを掲載したら良いと思います。</p>
<p>生産地である鮭のメニューを習いたいです。</p>
<p>地場産の物を使った子供向けの料理教室、浜の母さん料理教室や山の畑の母さん料理教室等。</p>
<p>一人でも若い人が食育協議会に入ってほしいですね。地区ごとに1～2人いると良いですね。</p>
<p>作物作りから、手をかけ収穫し料理を作る、この工程を低学年の授業か学習に取り入れ、興味を仰ぐ仕組みであってほしい。自分で食材から選ぶ、メニューを決定し、料理教室。食材を用意→そこから作られるメニューを考え、料理をする。どのようなご案内にも、興味のある方、参加しませんかと書いてあるが興味を引く文面がないかしら。</p>

食育まつりみたいなのがあったらいいなと思います。様似にはアポイの火まつりがありますが、そこにある出店は大体決まったもので、焼き鳥、からあげ、ラーメンなど小さい子ども～大人まで栄養を考えられた出店を出して（年1回でも、季節ごとでも）、町民に食べてもらったり、作り方を教えたりという場があるといいなと思います。また料理コンテストとかもいいと思います。様似でとれた食材などをテーマにしてみたいな。1位になった料理はどこかで提供したりその人に町内御食事券をプレゼントするとか。

魚の捌き教室、いちごジャムの作り方、アポイ米で米粉パンの作り方等。

自分自身では動かないができる範囲で応援したい。

せっかく魚が獲れる地域なので、様似町で育っている子供に魚の捌き方を教えてほしいです。私は小学生の頃に「ウイークエンド」で手作り鮭フレークの作り方を教えてもらって作る体験をしたのですが、鮭や魚の捌き方が分からないので、せっかく学んだ鮭フレークの作り方を実践できずにいるので、、、「北海道の海がある町出身」と言うと「そしたら魚とか捌けるの?」と言われるのが多かったので、その度に「魚を捌けたら良かったな～」と思いました。

子ども食堂的な事を小中学校で週に2回くらいしてみたい。

昆布、鮭、つぶ何をとってもそれほど気にして使っていませんが昆布は毎日（タレ・ダシ）食べます。様似の食育さん活動頑張ってください。

給食が無いので、親のレパートリーを増やしたり、子どもに弁当作りの大変さやありがたみを感じてもらうための、親子でお弁当作り教室などを開催してみたら楽しいかもしれません。一緒に作ったお弁当を持ってピクニックとかしてもらえると思い出になると思います。私は独り身なので親子にこだわらない自分用や夫婦等大人向けの弁当講座（食中毒予防も含めて）もありがたいと思います。また、地元の食材を使った料理教室もあると助かります。特に魚介類が豊富にあるのに食べ方があまり知らないなので、そういったことを教えてもらう場があると良いなと思います。

簡単なものやネットで調べて分かるものは自分で調べてしまうので、特にない。地元でとれる海産物に扱いが雑なところがあるので、漁協や業者、専門家の協力、指導を得てブランド化して売り出していけば、様似町のPR活動にもなりますし、STVラジオさんでやっているドキドキフードパークへの出店もできるのではないかと思います。自分も一漁業者としてこのような活動をしていきたいと思っています。

絶対に小中学校の給食はあった方が良くと思います。私自身は様似出身ではないですが、小中と給食を食べていました。毎日配られる献立表を見て、そこに書かれている栄養バランスを確認したり、同級生と「意外とこれ美味しいよ～」などといった会話ができて、お互いに好き嫌いを克服したというような思い出があります。自分の子供たちにも給食を通じて色々なことを学んでほしいです。食べるだけでなく、支度や片付けも大事。夫は給食を食べた経験が無いそうですが、「母親の料理はいつでも食べれるから、給食を食べてみたかったな～」と言っていました。

学校給食がないため子供達自ら食育を学ぶ機会が得られずとても残念です。完全給食実施率は98%以上。中学校もほぼ同様。様似の子供達は給食を通じて食を学ぶ機会がありません。給食を含め教育全般（少年団、スポーツ関係）を考え、小学校入学前に町外へ引っ越しする方もいます。同等の学びを得られないのは、いかがなものなのでしょうか。

学校給食は大事。設問にある1つだけの理由にとどまらない。今はコンビニ慣れして添加物食品を食べる事が多く、味覚上も問題。親が作る弁当も冷凍ものが多い。豊かな食生活を、素材の味を感じる正しい味覚は、人間形成上必要なこと。それを表現するのは、今の家庭、社会、環境では難しい。せめて子どもの一時期でもそうした食生活を体験させるべき。

様似町の食育活動はどのようなことをしていますか？学校給食について町議会では話し合いがされていますか？

是非とも学校給食を実施してほしいです。全食出来ないとしても、週に3日でも2日でも全校一斉でなくても学年別でも、何か対策があると思います。家庭の味だけでなく、様々な調理法で様々な味付けで食すことによって、「食」に対する興味、考えを持ってもらうことは子供達に必ずプラスになるはず。新たに施設を作らなくても旧ソビラ荘の調理設備を再利用できないものか。

学校給食を考えて欲しい。他町でできるのに、単体町で出来ないなら他町と協力してできないのか。アポイ山荘や町内の飲食店等と協力して出来ないものなのか。

小学校だけでも給食にしてほしい。みんなで温かい同じメニューのごはんを食べるのは子どもながらに毎日楽しみでした。また、家では食べたことのないメニューや食材、嫌いな食べ物への挑戦にもつながるため必要だと思います。去年の夏はとても暑くお弁当を少しでも傷まないようにするためには、ガチガチに冷やしていかなければならないですし、その影響もあり大人になってからはお弁当が大嫌いで食べないという人もいます。

学校給食も食育の一貫になると思うのに、なぜ様似町は給食にしないのか。今はほぼ共働きが多いのに、弁当作りという母親の負担を減らそうとしてくれないのか。様似町の子だけ、給食の話題にもついていけない。給食があるとそれだけで働く場所も増える。色々な観点から考えても給食はメリットになるはず。小学校を建て替える時点で考えて作るべきだったはず。今の幼児の親がほぼ共働きということのを思ったら、今後も学校給食のことを考えて実行するべきと強く願う。

私自身は給食のある街で育ったので、様似町で給食が無いこと自体がびっくりです。食育以前の問題だと思います。小中学生の子供がいる世帯からすると、給食が無いのは魅力のない町です。逆になぜ給食が無いのでしょうか。不思議です。

学校給食をぜひお願いいたします。少なくとも、30数年同じ要望、又アンケートを出しても実現することなく現在に至っています。他町で出来ていることがなぜ様似町で出来ないのでしょうか。若いお母さんを助ける事や様似町に住んで子育てを考えている若い世代の支援をお願いいたします。

<p>忙しい若い人達に生活習慣病予防の知識や健康に生活する為の活動をたくさんしてほしいです。私はもっと知識があったらとこの歳になって思います。学校給食について、子どもが小学校に入学した35年位前、学校給食が必要とPTAなど活動していた気がします。その時それ以前から要望があったと聞きました。いまだに給食にならないのには理由があり出来ない状況ですか。</p>
<p>学校給食については私が小学校の頃からアンケートやらとっているが、一向に動きがないです。なんのためにアンケートをとっているのか不思議です。</p>
<p>様似町では給食がありません。給食があつてこそその食育です。様似ではこれからも望めないようですね。</p>
<p>学校給食の質問がありましたが、本当に必要だと思います。1番体の成長期に母親お弁当だけじゃ、栄養バランスはちゃんと摂取できません。学校では15分しか食べる時間がないので、好きなものだけ食べて嫌いなものは残して帰ってきます。保育園のようにおかずだけでも出してもらえたら良いなと思っています。</p>
<p>学校給食の実施、子供達への食育についてもっと力を入れてほしい。学校給食がないことにより、他市町村より食育の取組みが行われていないように感じるため。</p>
<p>様似町が学校給食を実施しない訳を知りたい。</p>
<p>学校給食を求める声が子育て世代から多くあるのに、なぜこうも話が進まないのか。「給食が無い」ということを逆に様似町として強みとして打ち出していくなら、ないことへの納得につながるが、現状そういった流れではないと思う。給食センターを作った時のコストの問題も分かるので難しいのであれば、お弁当作りのための支援（地場産のもの、地域の農家さんからの食材提供など）があると良いなと考える。</p>
<p>地元の農産物、海産物をもっと手に入りやすくしてほしいです。学校給食は子どもたちや保護者のためにも早急に必要だと思います。</p>
<p>私たちの育った故郷では小学校から中学校まで給食がありました。様似に越してきて給食が無いと聞いた時は衝撃でした。給食とは子どもにとって大切な思い出となります。みんなで囲んで食べる美味しい給食。できれば校内に給食センターがあり、給食のおばさんと日々会え、感謝して食べる。親の負担にもなりますし、ぜひ給食を検討していただきたいです。</p>
<p>様似町は食に関心のない大人が多いようです。たぶん学校給食が無いと、子どもの頃からの食育が遅れているからだだと思います。そのため肥満気味の子も多いように思います。海の幸、山の幸が豊富な町なのにもったいないと思います。ぜひ幼いころからの食育を実施してください。</p>
<p>他、学校給食は本当に必要、早く検討してほしい等（他17名）</p>